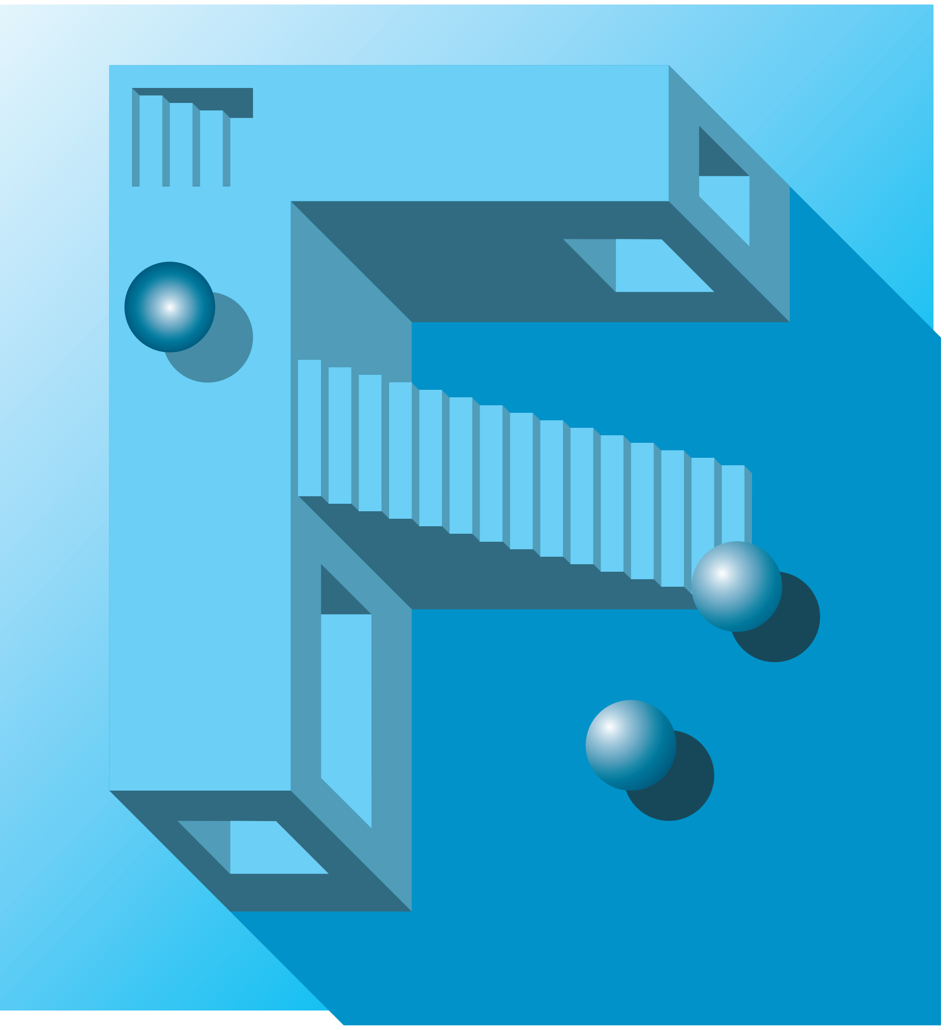
B1FH-6601-01



PRIMERGY FileServer (PGC2BE1QA/PGC2BE1QR)

取扱説明書

FUJITSU

はじめに

このたびは、「PRIMERGY FileServer」をお買い上げいただきありがとうございます。PRIMERGY FileServer は、Microsoft Windows Powered を用いたファイルサーバに特化した、専用サーバです。

本サーバは、PRIMERGY B225 を基に構成されており、一部のソフトウェアにおいてモデル名等が「PRIMERGY FileServer」ではなく「PRIMERGY B225」と表示される場合があります。また、接続するオプションの取扱説明書に「PRIMERGY FileServer」が記述されていない場合には、「PRIMERGY B225」に関する記述をご参照ください。

ただし、本サーバに接続できるオプション製品の種類／数は「PRIMERGY B225」とは異なりますので、ご注意ください。

本書では、PRIMERGY FileServer の特長、本サーバの設定を容易にする事前設定ツール「DesignMagic for FileServer」を使ったセットアップ方法や、Web インタフェースによる設定方法について説明しています。

本書が皆さまのお役に立つことを願っております。

2001 年 8 月

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標である可能性があります。
- 本書に記載されている各製品は、各社の著作物です。
- Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

安全にお使いいただくために

本書には、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本サーバをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本サーバをお使いください。

また、本書は、本サーバの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

本装置およびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

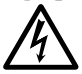
本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

⚠警告　**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。**

⚠注意　**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。**

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感 電



△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分 解

⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

■ 万一、異常が発生したとき

⚠警告

プラグ

- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 本体の取り扱いについて

⚠警告

分 解

- 装置を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。
  内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

禁止

- ディスプレイに何も表示できないなど、故障状態で使用しないでください。故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。
- 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 殺虫剤などを使って害虫駆除を行う場合には、サーバ本体を停止し、ビニールなどで保護してください。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。

水気

- 本体に水をかけないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。故障・火災・感電の原因となります。

プラグ

近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。

禁止

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

指示

電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。

アース

アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続ができない場合は、担当営業員または担当保守員にご相談ください。万一漏電した場合に、火災・感電の原因となります。

警告

取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠注意

禁止

- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- AC アダプタを使用する装置の場合は、マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・けがの原因となります。
- フロッピィディスク・IC カードなどの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となります。
- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- 携帯電話などを本体に近づけて使用しないでください。装置が正しく動かなくなります。

指示

- 転倒防止足のある装置は必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。

プラグ

- 装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源ケーブルなどもはずしてください。作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。
- 長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。

指 示

- 健康のため、1 時間ごとに 10 〜 15 分の休憩をとり、目および手を休めてください。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず 2 人以上で行ってください。けがの原因となります。
- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与える原因となります。

■ オプションの取り扱いについて

⚠警告

感 電

オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、装置本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

禁 止

- 弊社推奨品以外の装置は接続しないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 本体に取り付けたモデムカードに、二股のモジュラプラグを接続している場合、空いている差し込み口に指などを入れないでください。感電の原因となります。

■ 電池の取り扱いについて

⚠警告

警告

使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠注意

禁止

- マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

指示

電池を取り付ける場合、極性のプラス（+）とマイナス（−）の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

■ 温湿度について

⚠注意

- **本装置は、周囲温度が 10 〜 35 ℃の環境を守ってご利用ください。**
  特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し (夜間や休日など)、条件をはずれた温度のもとで運用されることの無いようにしてください。
  温度条件が守られないと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
  - **特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 ℃を超えないようにしてください。**
  - **冬場など寒中での暖房時は、一時間あたりの温度上昇が 15 ℃を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。**

		室内温度 (°C)							備考
		10	15	20	25	30	35	40	
相対湿度 (%)	20	- 7	- 5	- 3	1	5	9	13	[見方] 温度 25°C で湿度 60% の場合、装置が 17°C 以下のとき、結露します。
	40	- 3	2	7	11	16	20	24	
	60	3	8	13	17	22	26	31	
	80	7	12	17	22	26	31	-	
	90	9	13	19	24	29	34	-	

■ 腐食性ガスや塵埃について

⚠注意

腐食性ガスや塩風は、装置を腐食させ誤動作、破損および、装置寿命を著しく短くする原因となりますので、空気清浄装置を設置するなどの対策が必要となります。
また、塵埃が多い場所についても、記憶媒体の破損、装置冷却の妨げなどにより、誤動作や装置寿命を著しく短くする原因となります。

- **腐食性ガスの発生源としては、化学工場地域、温泉／火山地帯などがあります。**
- **塩害地区の目安としては、海岸線から 500m 以内となります。**

■ 本装置を廃棄するとき

本装置を廃棄する場合には、産業廃棄物として処理する必要があります。廃棄する場合には、必ず担当営業または専門業者にご連絡ください。

PRIMERGY FileServer 保守サービスについて

■ サーバの保守サポート期間

保守サポート期間は、お客様の購入後 6 年間です。

■ 定期交換部品

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より保守サービス契約を結ばれたお客様においては、交換費用（交換部品代及び、交換作業代）は、当該サービス契約料金に含まれており、優先的に交換いたします。

なお、保守サービス契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

● 定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35 ℃ですが、交換時期は平均使用温度 25 ℃での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

● 定期交換部品

○ 電源ユニット

24 時間／日運転では約 3 年を経過すると交換時期となります。

10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

○ 冷却ファン

24 時間／日運転では約 3 年を経過すると交換時期となります。

10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

○ **プロセッサのファン**

24 時間／日運転では約 3 年を経過すると交換時期となります。
10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。
本サーバには最大 2 個あり、交換が必要です。

○ **高性能無停電電源装置のバッテリ**

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリ寿命が短縮されることがあります。
詳細につきましては、高性能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

● **定期交換部品の交換時期の表示**

RAS 支援サービス（PRIMERGY FileServer では、出荷時にインストール済み）を使うと、部品の交換時期が近くなったとき、部品の交換を促すメッセージがサーバのコンソールに表示されます。メッセージは、数ヶ月以内に交換を促す、おおよその目安を示しており、メッセージが表示されましたら保守サービス窓口にご連絡ください。
RAS 支援サービスについては、「付録 C.1 RAS 支援サービスについて」（→ 352 ページ）を参照してください。

PRIMERGY FileServer では、システムの安定稼動を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。
上記の定期交換部品のこともご勘案いただき、是非とも保守サービス契約を結ばれますようお願い申し上げます。

⚠注意

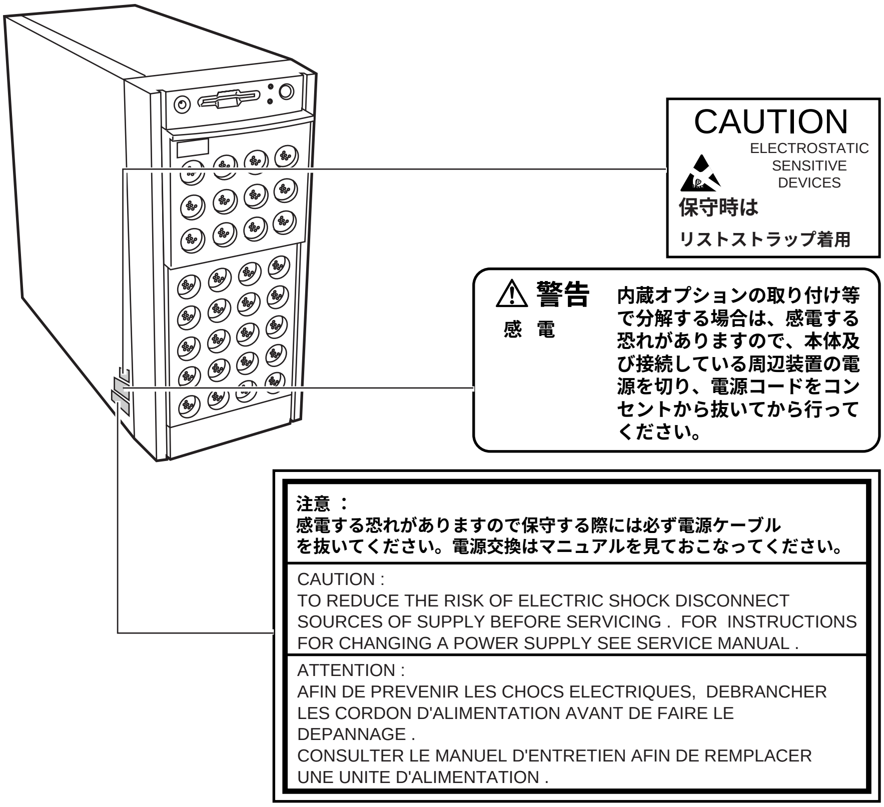
定期交換部品の交換周期は周囲温度で変動します。
定期交換部品の交換周期は、サーバ本体の使用温度を年間平均温度 25 ℃と想定してしております。したがって、年間平均温度が25℃を超えた環境で使用すると交換時期が早くなる場合があります。
一般的に温度が 10 ℃上がると (年間平均温度 35 ℃)、定期交換部品の交換周期は約半分に短縮されます。

警告ラベル

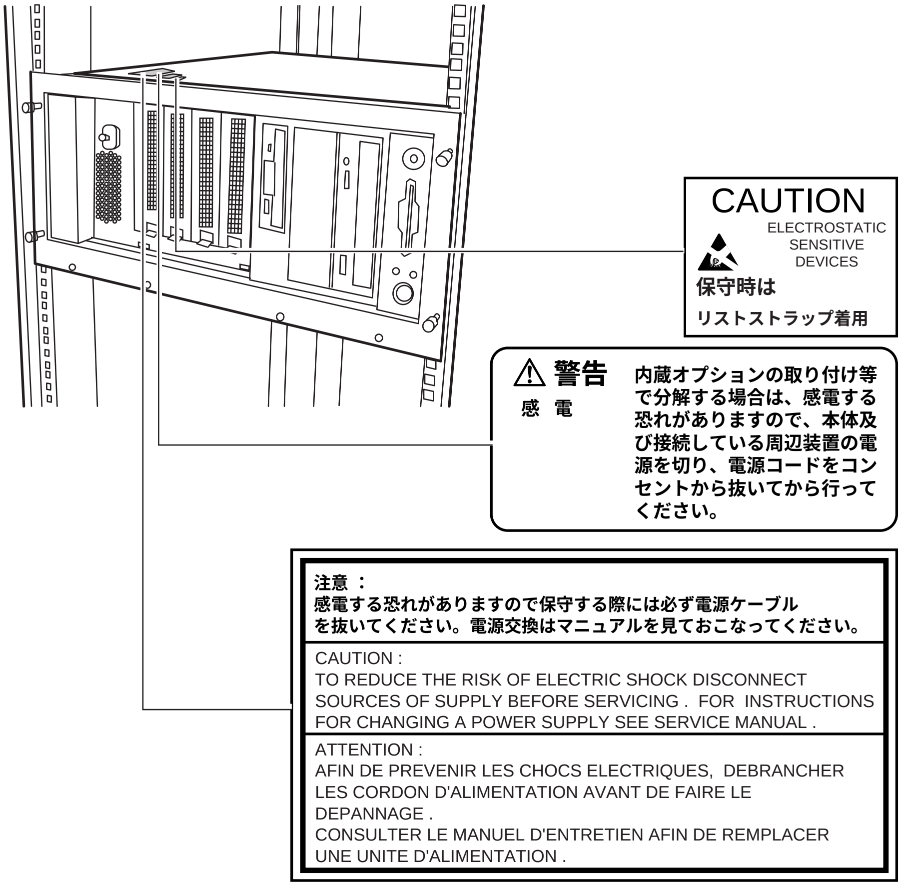
本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。

■ ペデスタルタイプ

[装置側面]



■ ラックマウントタイプ


CAUTION
ELECTROSTATIC SENSITIVE DEVICES
保守時は
リストストラップ着用
⚠ 警告
感 電
内蔵オプションの取り付け等で分解する場合は、感電する恐れがありますので、本体及び接続している周辺装置の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
注意 ：
感電する恐れがありますので保守する際には必ず電源ケーブルを抜いてください。電源交換はマニュアルを見ておこなってください。
CAUTION :
TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK DISCONNECT SOURCES OF SUPPLY BEFORE SERVICING . FOR INSTRUCTIONS FOR CHANGING A POWER SUPPLY SEE SERVICE MANUAL .
ATTENTION :
AFIN DE PREVENIR LES CHOCS ELECTRIQUES, DEBRANCHER LES CORDON D'ALIMENTATION AVANT DE FAIRE LE DEPANNAGE .
CONSULTER LE MANUEL D'ENTRETIEN AFIN DE REMPLACER UNE UNITE D'ALIMENTATION .

本書の表記について

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] ＋ [F3] キー、[Shift] ＋ [↑] キーなど

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
         ↑  ↑
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を 1 回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 略称について

本書では、製品名を次のように省略することがあります。

製品名	略称
Microsoft® Windows® 95 Operating System	Windows 95
Microsoft® Windows® 98 Operating System	Windows 98
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0 Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0	Windows NT

製品名	略称
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000
Internet Explorer 5.01 Internet Explorer 5.5	Internet Explorer、IE
Microsoft® Internet Information Server 5.0	IIS 5.0、IIS
PRIMERGY FileServer	**本サーバ、サーバ本体、本機**

■ 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。

ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻し方や、困ったときの対処方法が書いてあります。

コラム

用語の意味や、豆知識が書いてあります。

本書では、本サーバの形態を区別して、以下の名称を用いて説明します。

- ペデスタルタイプ
- ラックマウントタイプ

■ 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

目　次

第 1 章 本サーバについて 1

1.1 特　長 2
1.2 NAS サーバストラテジ 4
1.3 名称と働き 6
1.3.1 サーバ本体前面 6
1.3.2 サーバ本体背面 8
1.3.3 サーバ本体内部 9
1.3.4 セキュリティ 10
1.3.5 キーボード／マウス 12
1.4 設置から運用まで 14

第 2 章 設置と接続 17

2.1 梱包物の確認 18
2.2 設置 19
2.2.1 設置場所に関する注意 19
2.2.2 設置環境および設置条件 21
2.2.3 サーバ本体のラックへの搭載手順 23
2.3 接続方法 25
2.3.1 接続全体図 25
2.3.2 ディスプレイの接続 26
2.3.3 キーボード・マウスの接続 27
2.3.4 LAN ケーブルの接続 28
2.3.5 プリンタの接続 29
2.3.6 電源ケーブルの接続 29

第 3 章 基本的な操作 31

3.1 ドライブカバーのスライド 32
3.2 ラックドアを開ける 33
3.2.1 フロントドアの開け方 33
3.2.2 リアドアの開け方 34

3.3 電源を入れる 35
3.4 電源を切る 36
3.5 フロッピィディスクのセット／取り出し 37
3.5.1 取扱い上の注意 37
3.5.2 フロッピィディスクのセットと取り出し 39
3.6 CD-ROM のセット／取り出し 40
3.6.1 取扱い上の注意 40
3.6.2 CD-ROM のセットと取り出し 42

第 4 章 セットアップ 45
4.1 セットアップの概要 46
4.1.1 オフラインサーバ設定とオンラインサーバ設定 47
4.2 オフラインサーバ設定について 49
4.2.1 DesignMagic for FileServer でのセットアップ手順 51
4.2.2 DesignMagic for FileServer でのサーバ設計の流れ 52
4.2.3 DesignMagic for FileServer での環境情報設定の流れ 53
4.2.4 サーバ情報を設定する 54
4.2.5 PRIMERGY FileServer の環境情報設定を行う 61
4.3 オンラインサーバ設定について 72
4.3.1 WebUI でのサーバ運用に必要なセットアップ手順 73

第 5 章 PRIMERGY FileServer の運用・管理について 75
5.1 WebUI 76
5.2 接続方法 77
5.3 WebUI 画面構成 79
5.3.1 ステータス領域 80
5.3.2 コンテンツ領域 81
5.3.3 WebUI 内を移動する 83
5.4 MMC によるサーバ管理 84
5.5 運用までの詳細手順 85
5.5.1 サーバ状態を確認し、状態を回復する 85
5.5.2 PRIMERGY FileServer 名を設定する 87
5.5.3 管理者アカウントを設定する 89
5.5.4 既定ページを変更する 91
5.5.5 管理者ポートを変更する 92
5.5.6 日付と時刻の設定を行う 93
5.5.7 通知電子メールの設定を行う 94

第 6 章 ネットワーク環境設定........................97

6.1 ネットワークの配置 98
6.1.1 設置個所のネットワークセグメントが二つ以上に分かれている........................98
6.1.2 ネットワークセグメント数が NIC 数より多い 98
6.1.3 設置個所はセグメント分割されていない 98
6.2 ネットワーク設定の流れ 99
6.3 IP アドレス設定を変更する........................100
6.3.1 接続名の変更 101
6.3.2 IP アドレス構成を変更する........................101
6.4 NIC の有効／無効の設定を行う 104
6.4.1 NIC の有効／無効の変更を行う 104

第 7 章 ユーザー管理について........................105

7.1 効果的な管理法 106
7.1.1 ユーザー名の管理........................107
7.2 ユーザーの新規追加を行う 109
7.3 既存ユーザーを削除する 111
7.4 パスワードを設定する 112
7.5 ユーザープロパティを確認／変更する 112

第 8 章 グループ管理について........................113

8.1 グループ管理の概要 114
8.2 グループを新規作成する 116
8.3 グループを削除する 118
8.4 グループプロパティ情報を表示する 119

第 9 章 ファイル共有について........................121

9.1 サポートするネットワークファイルシステム 122
9.1.1 CIFS の特長........................122
9.1.2 NFS の特長........................122
9.1.3 AppleTalk の特長........................125
9.2 ファイルの共有～異種システムの混在環境における使用～ ...126
9.3 既存のフォルダを共有する 128
9.4 新しくフォルダを共有する 129
9.4.1 全般........................130
9.4.2 CIFS 共有........................131
9.4.3 NFS 共有........................135

9.4.4 FTP/HTTP 138
9.4.5 Apple Macintosh..138
9.5 フォルダ／共有を管理する 140
9.6 共有プロトコルの概要 141
9.7 CIFS 共有プロトコル...141
9.8 NFS 共有プロトコル..141
9.8.1 NFS クライアントグループの管理...142
9.8.2 NFS ファイルロック...145
9.8.3 ユーザーとグループのマッピング管理....................................146
9.8.4 簡略マッピング 149
9.8.5 明示的なユーザーマッピング 150
9.8.6 明示的なグループマッピング 152
9.9 FTP 共有プロトコル 153
9.10 HTTP 共有プロトコル 153
9.11 フォルダ 154
9.11.1 NTFS の特長 154
9.11.2 システムのセキュリティ 154
9.12 アクセス許可の継承のしくみ 155
9.13 フォルダの作成方法..156
9.13.1 新規フォルダを作成する 158
9.13.2 フォルダを削除する 158
9.13.3 フォルダの情報を確認する 159

第 10 章 PRIMERGY FileServer の様々な使いかた................................161

10.1 共有情報を利用する 162
10.1.1 ブラウザシステムを使ってサーバを検索する 162
10.1.2 ネットワークドライブを割り当てる 163
10.1.3 分散ファイルシステムを利用して、
統合的なリソース管理を行う 164
10.2 IIS と連携する 166
10.2.1 仮想ディレクトリを利用する 166
10.2.2 共有ディレクトリをそのまま使う 168
10.3 UNIX/Linux ソフトウェアと連携する.......................................169
10.4 Apple Macintosh から使う...170

第 11 章 バックアップ & リカバリ 173

11.1 固定記憶域 174
11.1.1 固定記憶域とは？ 174
11.1.2 固定記憶域マネージャーのボリューム構成 175
11.1.3 スナップショットのおすすめ取得例 176
11.1.4 固定記憶域の自動作成計画 177
11.1.5 固定記憶域の自動作成を行う 177
11.1.6 固定記憶域を手動で作成する 179
11.1.7 スナップショットデータを復元する 180
11.1.8 特記 180
11.2 バックアップ 181
11.2.1 バックアップの種別と特徴 181
11.2.2 バックアップのスケジューリング 182
11.2.3 バックアップ案 183
11.2.4 バックアップの実行 183
11.2.5 システムパラメータのバックアップ 183
11.3 リカバリ 185
11.3.1 リカバリの種別と方法 185

第 12 章 ディスク 187

12.1 設計コンセプト 188
12.1.1 ハードディスクキャビネットのディスク構成 188
12.2 Storage Manager を実行する 189
12.2.1 Physical Configuration View 190
12.2.2 Logical Configuration View 191
12.3 アレイまたはディスクステータスを確認する 192
12.3.1 コントローラに関する情報を確認する 193
12.3.2 アレイに関する情報を確認する 194
12.3.3 SCSI 機器に関する情報を確認する 196
12.4 アレイグループを作成する 198
12.5 アレイグループを削除する 200
12.6 容量を拡張する 201
12.7 アレイのリビルドを行う 203
12.8 ディスクの検査を行う 204
12.9 アレイグループを新しく命名する 204
12.10 ホットスペアディスクを作成する 205
12.10.1 リダイレクト 207
12.11 ハードディスクが故障した場合 208
12.12 アレイおよびハードディスクの
キャッシュ設定を変更する 209

12.13 イベント 210
12.13.1 イベントロギング 211
12.14 ソフト的なディスク増加を行う 212

第 13 章 サーバ監視について 215

13.1 サーバ監視の概要 216
13.2 配置 216
13.3 ServerView の機能 218
13.4 管理のための設定（ServerView を使う前に） 220
13.4.1 SNMP サービスの登録 220
13.4.2 ユーザーの登録手順 222
13.4.3 コンピュータ情報変更登録 222
13.5 ServerView の使用方法 223
13.5.1 アラームサービスを起動する 223
13.5.2 Alarm Manager..225
13.5.3 Alarm Monitor..227
13.5.4 Alarm Settings 228
13.5.5 アラームメールの設定を行う 231
13.5.6 リモートサービスボードについて 231

第 14 章 保守機能について 235

14.1 ソフトウェア更新 236
14.2 メモリダンプ 237
14.2.1 ダンプの種類と情報範囲 238
14.2.2 ダンプの採取設定 239
14.3 クラッシュが起きてしまったら 240
14.3.1 状態を確認する 240
14.3.2 ダンプファイルを取得する 240
14.4 障害の通知 243
14.5 リカバリ CD によるリカバリ 243
14.5.1 リカバリ作業の流れ 244
14.5.2 BIOS 設定の初期設定 244
14.5.3 リカバリの実施 244
14.5.4 リカバリ後のシステム復旧 246

付録 A セットアップ 249
A.1 セットアップの概要 250
A.2 ハードウェアの設定 251
A.3 BIOS セットアップユーティリティを使う 253
A.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき 253
A.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了 254
A.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作 256
A.3.4 メニューと項目一覧 257
A.3.5 Main メニュー 261
A.3.6 Advanced メニュー 267
A.3.7 Security メニュー 280
A.3.8 Server メニュー 284
A.3.9 Exit メニュー 289
A.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う 290
A.4.1 SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動と終了 ... 290
A.4.2 メニューと項目一覧 293
A.4.3 Boot Adapter List メニューの詳細 295
A.4.4 Grobal Properties メニューの詳細 296
A.4.5 Device Properties メニューの詳細 300
A.5 BIOS 設定情報の退避／復元 302

付録 B 内蔵オプションの取り付け 309
B.1 内蔵オプションの種類 310
B.2 各カバーの取り外し 312
B.2.1 ハードディスクカバーの取り外し／取り付け 313
B.2.2 サイドカバーの取り外し／取り付け 314
B.2.3 トップカバーの取り外し（ラック搭載時） 315
B.3 CPU の取り付け 317
B.3.1 故障 CPU の切り離し機能 321
B.3.2 CPU 増設時の OS の変更手順 321
B.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し 325
B.4.1 取り付け／取り外し時の手順と注意 325
B.4.2 故障メモリの切り離し機能 327
B.5 内蔵オプションベイへの取り付け 328
B.5.1 全体図 328
B.5.2 ストレージベイへの取り付け 329
B.5.3 内蔵ハードディスクユニットの交換 331
B.5.4 5 インチ内蔵オプションの取り付け／取り外し 334

B.6 拡張カードの取り付け....337
B.6.1 拡張カードの種類....337
B.6.2 取り付けの手順と注意....340
B.6.3 SCSI カード／ SCSI アレイコントローラカードの留意事項....342
B.6.4 LAN カード／オンボード LAN の留意事項....348
B.6.5 リモートサービスボード....349

付録 C RAS 支援サービス....351
C.1 RAS 支援サービスについて....352
C.1.1 メニューと項目一覧....353
C.1.2 部品寿命情報 参照・設定メニュー....353
C.1.3 障害の通知方法設定メニュー....356
C.1.4 RAS 支援サービスで表示されるメッセージ....356

付録 D 日常のお手入れ....359
D.1 お手入れ....360
D.1.1 サーバ本体のお手入れ....360
D.1.2 キーボードのお手入れ....360
D.1.3 マウスのお手入れ....360
D.1.4 フロッピィディスクドライブのクリーニング....361
D.1.5 内蔵 DDS3/4 ユニットのお手入れ....363
D.1.6 内蔵 SLR60/100 ユニットのお手入れ....366
D.2 バックアップ....368
D.2.1 バックアップの必要性....368
D.2.2 バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用....368

付録 E 故障かな？と思ったときには....371
E.1 トラブルシューティング....372
E.2 エラーメッセージ....375
E.3 BIOS Event Log Viewer / Agent Log Viewer の使用方法....378
E.3.1 BIOS Event Log Viewer の起動と終了....378
E.3.2 エラーログ／メッセージログの参照／保存....380
E.4 保守員に連絡するときは....383

付録 F 仕様 385
F.1 仕様 386
F.1.1 本体仕様 387
F.2 24 時間運用上の留意点 388
F.3 メモリダンプの取得 389
F.3.1 メモリダンプが取得できないとき 392
F.4 LAN 経由の電源投入／切断時の留意点 393

付録 G シート 395
G.1 コンフィグレーションシート 396
G.1.1 ハードウェア構成 396
G.1.2 BIOS セットアップ項目 398
G.1.3 SCSI Select ユーティリティ 404
G.1.4 RAID 設計シート 405
G.2 障害連絡シート 406

付録 H デザインシート 407
H.1 DesignMagic for PRIMERGY FileServer
（サーバ設計シート） 408

第 1 章　本サーバについて

この章は、本サーバの特長、代表的な周辺装置、装置の各部の名称と働きなど、基本的な知識を解説しています。

Contents

1.1 **特　長** 2
1.2 NAS **サーバストラテジ** 4
1.3 **名称と働き** 6
1.4 **設置から運用まで** 14

1.1　特　長

本サーバには、以下のような特長があります。

■ 高速な処理

本サーバでは、データを高速に処理できるクロック周波数 933MHz の Pentium® III プロセッサを最大 2 個まで搭載できます。また、PC133 仕様に準拠したメモリを搭載し、2 ウェイインタリーブ方式の採用によって、メモリアクセスの大幅な高速化を実現しています。
さらに最大データ転送速度 533MB ／秒を誇る PCI バス Ultra 160 SCSI を搭載しています。これによりネットワークサーバとしてのパフォーマンスを飛躍的に向上させることができます。
また、プレインストールされたソフトウェアも最適化した状態でご提供しており、ソフトウェア、ハードウェア共に高いレベルのパフォーマンスが実現できます。

■ 余裕の拡張性

コンパクトなデザインにもかかわらず、大容量かつ拡張性に富んだシステムを構成できます。

- 本サーバは、19 インチのラックを採用し、本体装置、ディスプレイ、キーボード、ハードディスクキャビネットなどを効率的に収納し、設置場所にスペースをとらないラックマウントタイプを用意しております。
- メモリは、最大 2GB まで拡張できます。
- 本サーバは、前面に 4 つの 3.5 インチサイズのハードディスクドライブ用ホットプラグベイを用意しています。
- 本サーバは、前面に 2 つの 5 インチ内蔵オプションベイを用意しています。うち 1 つのベイには内蔵 CD-ROM ドライブユニットを標準搭載しています。

■ 高信頼性の実現

- SCSI アレイコントローラカードを標準搭載し、ディスクアレイシステム（RAID5）を構成しております。
- ServerView の Auto Server Restart（ASR：自動再起動）機能により、サーバ異常の迅速な復旧ができます。
- ServerView のアクション機能により、OS 動作中にシステムイベントログ（SEL）を参照できます。
- Wakeup On LAN 機能により、クライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を投入／切断できます。
- RAS（Reliability, Availability & Serviceability）機能により、定期交換部品の交換時期を管理できます。

■ 簡単なセットアップ

本サーバは、アプライアンス導入支援プログラムである「DesignMagic for FileServer」を添付しており、お客様の環境における最小の設定で、運用開始までのTCO（Total Cost of Ownership）削減を最大限支援します。

また、本サーバはあらかじめセットアップに必要なパラメータをプレインストールにて設定しております。
これにより上記ツールを使わなくとも運用を開始できます。

「DesignMagic for FileServer」の設定とプレインストール設定の詳細な違いに関しては、「第 4 章　セットアップ」をご覧ください。

1.2 NAS サーバストラテジ

PRIMERGY FileServer は、ストレージに特化した専用サーバです。
本サーバはファイルサーバとして専用にチューニングされています。
お客様の運用ニーズに応じて以下の様々な利用形態に対応することができます。

■ ファイルサーバ

一言でファイルサーバと言っても、扱うファイルには色々な種類があります。
弊社が想定しているファイルサーバデータには、

- CAD/CAM
- **画像データ**
- **文書データ**
- **その他**

などがあります。
これらのデータを扱うファイルサーバとしては、以下を実現することができます。

- **ファイル共有による個人リソースの削減**
- **大容量データの安心保存**
- **高速なデータアクセスによる作業効率の向上**

■ ストリーミングメディアサーバ

ストリーミングメディアサーバとしては、以下を実現することができます。

- **大容量データの保存**
- **高速データ転送によるメディア配信**

■ アプリケーションサーババックエンド

アプリケーションサーババックエンドとしては、以下を実現することができます。

- **アプリケーションとデータの完全分離による耐障害性の向上**
- **高速データ転送によるディスク IO の負荷分散**

■ バックアップサーバ

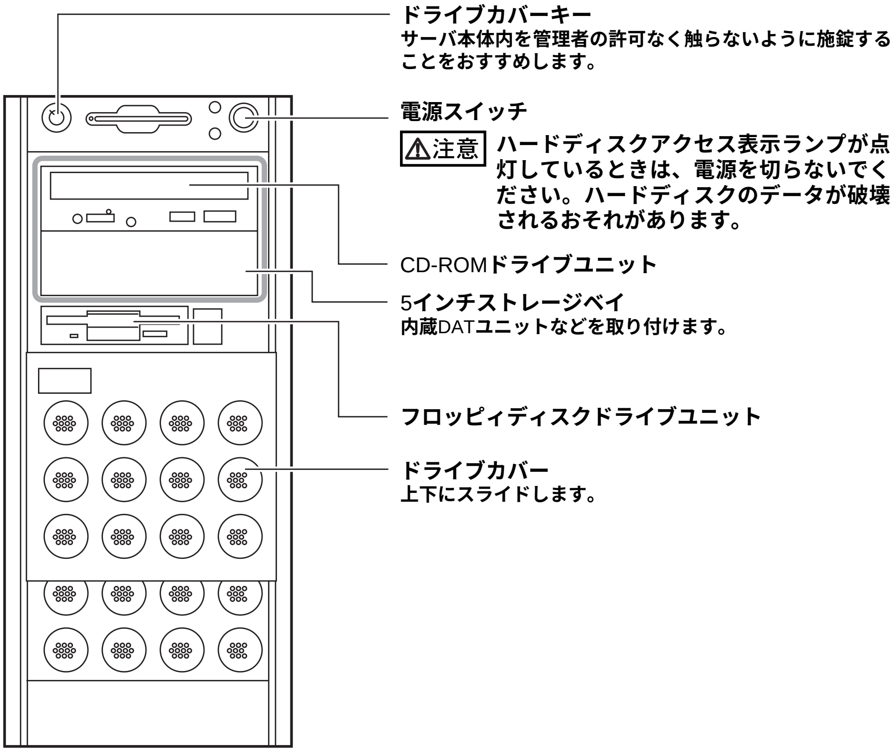
バックアップサーバのストラテジとしては、以下を実現することができます。

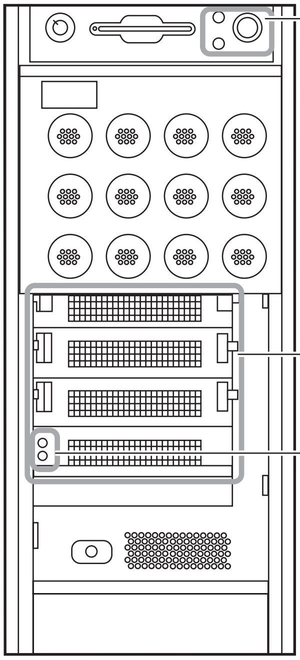
- **サーバ／クライアントのデータを保証し、耐障害性を向上**
- **大容量データの安心保存**
- **ディスク to ディスクの高速バックアップ／リストア**

1.3 名称と働き

ここでは、サーバ本体、キーボード、マウスの各部の名称と働きを解説します。

1.3.1 サーバ本体前面





システム状態表示ランプ
各ランプの意味を、以下に示します。

電源ランプ（⏻）
サーバ本体に電源が入っているときに緑色に点灯します。

ハードディスクアクセス表示ランプ（◎）
ハードディスクにデータを書き込んだり、データを読み込んだりしているとき緑色で点灯します。

メッセージ表示ランプ（✉）
サーバ本体内の部品に異常が検出されたときに緑色に点滅します。このランプが点滅している場合は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。

3.5インチストレージベイ
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。本サーバには、内蔵ハードディスクユニットを4台（最大数）搭載しています。

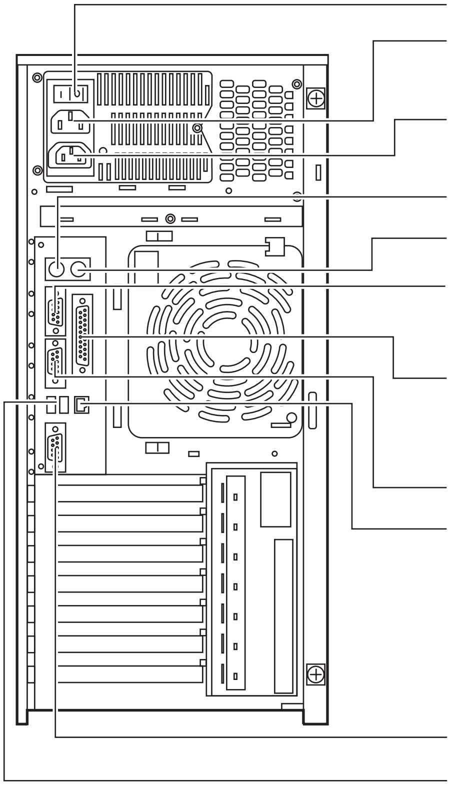
ハードディスク状態表示ランプ
ホットスワップ対応の内蔵ハードディスクユニットの場合、ランプの位置に搭載された内蔵ハードディスクユニットの状態を表示します。

ハードディスクアクセス表示ランプ（◎）
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。

ハードディスク故障ランプ（⊗）
アレイシステム構成時に、内蔵ハードディスクに異常が検出されたときオレンジ色に点灯します。
ランプは、ハードディスクの状態によって以下のように点灯／点滅します。
点灯している場合は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。

ランプの状態	ハードディスクの状態
消灯	正常時
点灯	ハードディスク故障またはリビルドエラー
ゆっくり点滅	リビルド中
はやい点滅	ハードディスク認識中
4回点滅	ハードディスク故障予兆
2回点滅	ホットスペア時

1.3.2　サーバ本体背面

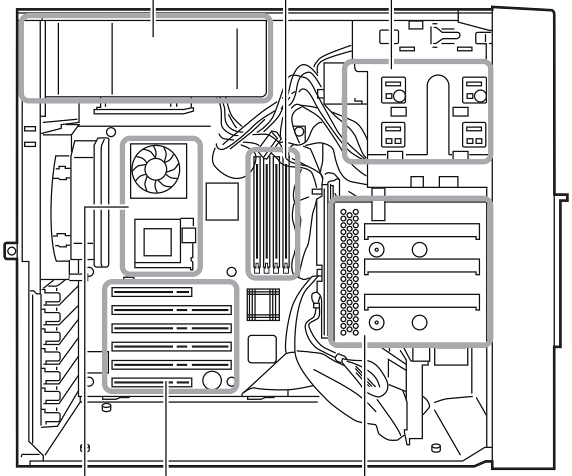

電源ユニットスイッチ
インレット
AC電源ケーブルを接続します。
アウトレット
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
PS/2キーボードコネクタ（6ピン）
PS/2マウスコネクタ（6ピン）
1
シリアルポートコネクタ1（9ピン）
モデムなどRS-232C規格の装置のケーブルを接続します。
パラレルポートコネクタ（25ピン）
プリンタ装置（ESC／Pシーケンス）のケーブルを接続します。
2
シリアルポートコネクタ2（9ピン）
10/100BASE-TXコネクタ
非シールド・ツイストペア(UTP)ケーブルを接続します。100Mbpsで使用する場合には、カテゴリ5に適用したケーブルが必要です。2つのLEDの意味は以下のとおりです。
GREEN LED点灯：LINKの確立中
YELLOW LED点滅：データ転送中
ディスプレイコネクタ（15ピン）
USBコネクタ1、2
USB(Universal Serial Bus)コネクタです。OSがWindows 2000 Serverの場合だけ、ご使用できます。

1.3.3　サーバ本体内部

電源ユニット

DIMMスロット
DIMMスロットには、拡張RAMモジュールを取り付けます。

5インチストレージベイ
最上段に内蔵CD-ROMドライブユニットを標準で搭載しています。内蔵DATユニットなどの5インチドライブユニットを取り付けます。



3.5インチストレージベイ
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

PCIスロット
本サーバの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。
PCIスロットには、PCIバスインタフェースを持つ拡張カードを装着できます。

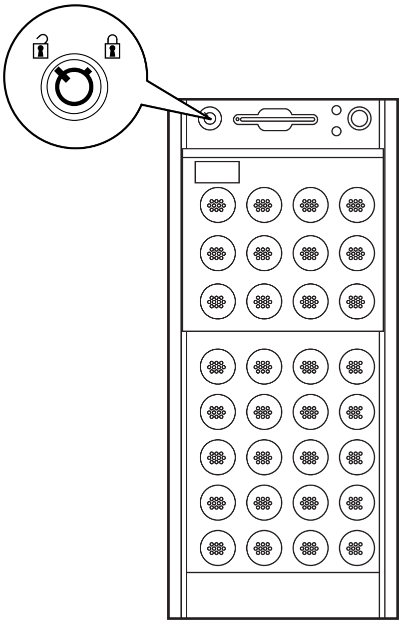
CPUスロット
CPUスロットにはCPUを取り付けます。
標準で1個搭載しており、最大2個まで搭載できます。

1.3.4　セキュリティ

本サーバでは、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るため、以下のように機械的なセキュリティ設備を用意しています。同時に、BIOS セットアップユーティリティなどによるセキュリティ機能も準備しており、より信頼度の高いデータセキュリティを実現します。(BIOS セットアップユーティリティなどのセキュリティモード設定については、「付録 A セットアップ」(→ 249 ページ) をご覧ください。)

■ ペデスタルタイプ

ドライブカバーを施錠すると、本体内のハードウェア (ハードディスクや 5 インチベイ) の盗難を防ぐことができます。
ドライブカバーを開ける場合は、ドライブカバーキーを左側に回します。

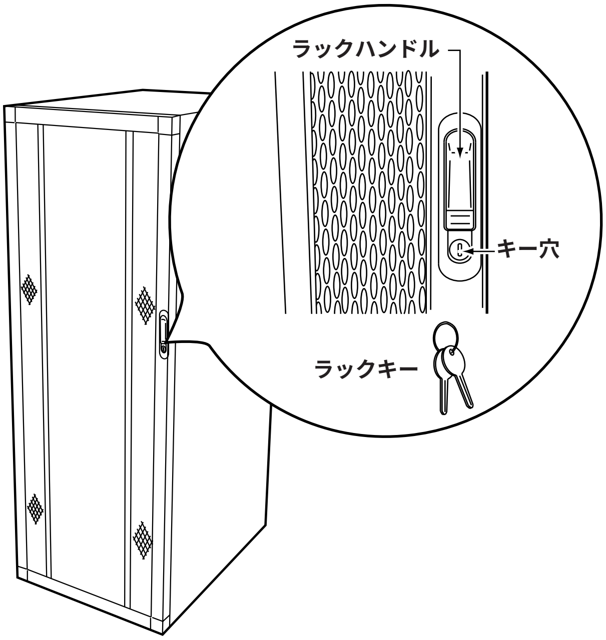


ポイント　**ドライブカバーキーは紛失しないように注意してください。紛失した場合は担当営業員に連絡してください。**

■ ラックマウントタイプ

ラックドアを施錠すると、ラック内部のハードウェアの盗難を防ぐことができます。

ラックドアを開ける場合は、ラックキーを回してラックハンドルの下部を押し、右側に回して手前に引きます。



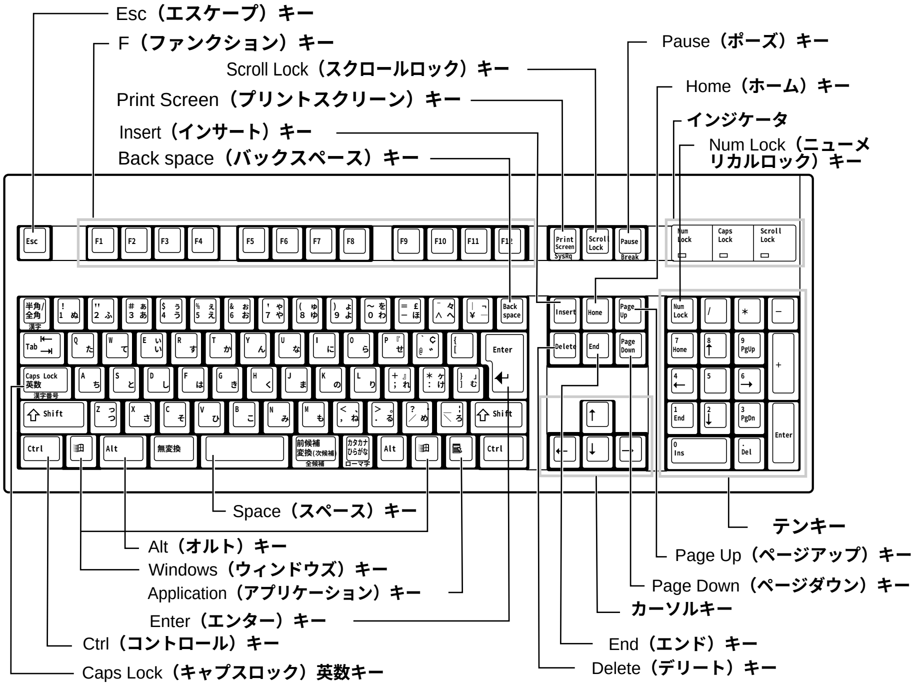
ポイント **ラックキーは紛失しないように注意してください。紛失した場合は担当営業員に連絡してください。**

1.3.5　キーボード／マウス

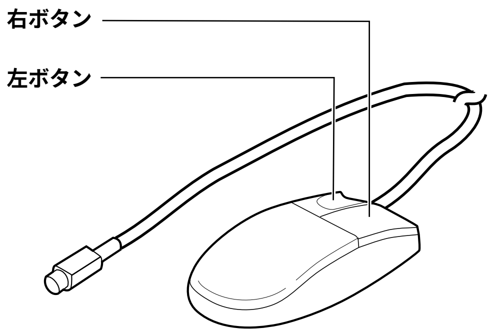
■ キーボード

ペデスタルタイプ（PGC2BE1QA）には、OADG に準拠したキーボードが添付されています。

キーボードの各種機能キーは、アプリケーションによって機能が異なります。



■ マウス



1.4 設置から運用まで

本サーバの設置から運用までの流れを示します。
以下の流れ図に従って、設置から運用までの作業を行ってください。

1. 梱包品/添付品を確認する。
   → 「第2章 設置と接続」の「2.1 梱包物の確認」

2. 設置場所を確認し設置する。
   → 「安全上のご注意」 「第2章 設置と接続」

3. 準備する。

事前に以下の物を用意してください。
・ 添付のリカバリCD2/2

4. 周辺機器を接続する。
   → 「第2章 設置と接続」の「2.3 接続方法」

5. 各機器の取り付けを確認する。

6. サーバ設定方法を選択する。
   → 「第4章 セットアップ」

7. 任意のクライアントマシンでリカバリCD2/2の「Tools」フォルダから DesignMagic for FileServerを起動する。→「第4章　セットアップ」

DesignMagic for FileServerは、以下のアプライアンスサーバの設定情報を簡単に行うことができる導入支援プログラムです。

・ サーバ識別情報
・ 管理者情報
・ ネットワーク設定

DesignMagic for FileServerを使用する場合
DesignMagic for FileServerを実行する → 「第4章 セットアップ」 「4.2 オフラインサーバ設定について」 ● DesignMagic for FileServerの設定について ● 環境設定について

DesignMagic for FileServerを使用しない場合
セットアップを実行する → 「第4章 セットアップ」 「4.3 オンラインサーバ設定について」

8. UPS（無停電電源装置）の取り付け

UPSを接続する場合
→「UPSの取扱説明書」

9. 運用開始

第 2 章　設置と接続

この章は、本サーバの設置場所および本サーバと周辺装置との接続方法を解説しています。

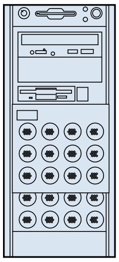
Contents

2.1 **梱包物の確認** 18
2.2 **設置** 19
2.3 **接続方法** 25

2.1　梱包物の確認

箱の中に次の品物がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までお申し付けください。

□本体装置



本サーバのマニュアル
□取扱説明書（本書）
□セットアップガイド
□保証書
□ SCSI アレイコントローラカード取扱説明書、ドライバディスク（一式）
□使用許諾契約書

設置時に必要なもの
□ドライブカバーキー（2 個）
□電源ケーブル（本体用）
□ラックマウントキット（一式、ラックマウントモデルのみ）
□キーボード（ペデスタルタイプのみ）
□マウス（ペデスタルタイプのみ）

内蔵オプション接続時に必要なもの
□リストストラップ
□ラベル（5 枚一組× 2）

本サーバのセットアップ時に必要なもの
□リカバリ CD
□ ServerView CD
□ハードウェア構成ツール起動用フロッピィディスク作成用ブランクフロッピィディスク
□ Server Management Tools

⚠注意

- **周辺機器の接続時には、必須オプションのキーボード、マウス、ディスプレイが必要になります。**
- **カスタムメイドプラスサービスをご利用になり、工場出荷時にラック搭載をした場合は、ラックマウントキットがラック搭載のために使用されています。**

2.2　設置

ここでは、本サーバを設置する場合の注意事項および設置条件などについて説明します。

なお、ラックの設置に関する注意については、ラックに添付されている取扱説明書を参照してください。

2.2.1　設置場所に関する注意

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。

⚠警告

禁止

- **湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に設置しないでください。**
  故障・火災・感電の原因となります。

水気

- **本体に水をかけないでください。**
  故障・火災・感電の原因となります。
- **風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。**
  故障・火災・感電の原因となります。

⚠注意

禁止

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10 ℃未満の低温になる場所には、設置しないでください。故障の原因となります。
- 塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
- 電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- テレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- 空気の吸排気口である装置前面部、背面部および左側面部をふさがないでください。
- 装置の背面部および左側面部は壁から 20cm 離して設置してください。
  これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 本体装置は、水平で安定した場所、および大きな振動の発生しない場所に設置してください。
  振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所は、落ちたり倒れたりしてけがの原因になりますので、設置しないでください。
  また、通路の近くには、危険防止のため設置しないでください。通路の近くに設置すると、人の歩行などで発生する振動によって本体が故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバの上に重いものを置かないでください。また、本サーバの上に物を落としたり、衝撃を与えないでください。
  バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。また、本サーバが故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバを移動する場合は、必ず電源を切断し、ケーブル類／マウス／キーボード／ AC ケーブルを外してください。
  オプションの搭載によって、最大 23.4Kg 以上の重量となりますので充分注意して運搬してください。

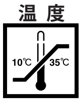
指示

- 転倒防止足のある装置は、必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。

2.2.2　設置環境および設置条件

ここでは、設置環境および設置条件について説明します。

⚠注意



- **本装置は、周囲温度が 10 ～ 35 ℃の環境を守ってご利用ください。**
  特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し（夜間や休日など）、条件をはずれた温度のもとで運用されることの無いようにしてください。
  温度条件が守られないと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
  - **特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 ℃を超えないようにしてください。**
  - **冬場など寒中での暖房時は、1 時間あたりの温度上昇が 15 ℃を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。**

■ 設置環境

本サーバは、以下の環境条件を守ったうえで運用してください。環境条件を外れた設置環境での運用は、本サーバの故障や寿命を著しく短縮する原因となります。

温度（10 ～ 35 ℃）

直射日光の当たる場所、温度条件の厳しい場所を避けて設置してください。また、急激な温度変動は装置を構成する部品に悪影響を与え、故障の原因となるため、温度勾配は 10 ℃／時間以内が理想です。また、15 ℃／時間を超えるような環境は避けてください。

湿度（20 ～ 80%）

高湿度環境に設置すると、腐食性有害物質および塵埃との相乗作用による故障の原因となります。また、磁気媒体・帳票類へも悪影響を及ぼしますので、空調機などにより調整してください。

塵埃（オフィス環境：0.15mg ／ m^3 以下）

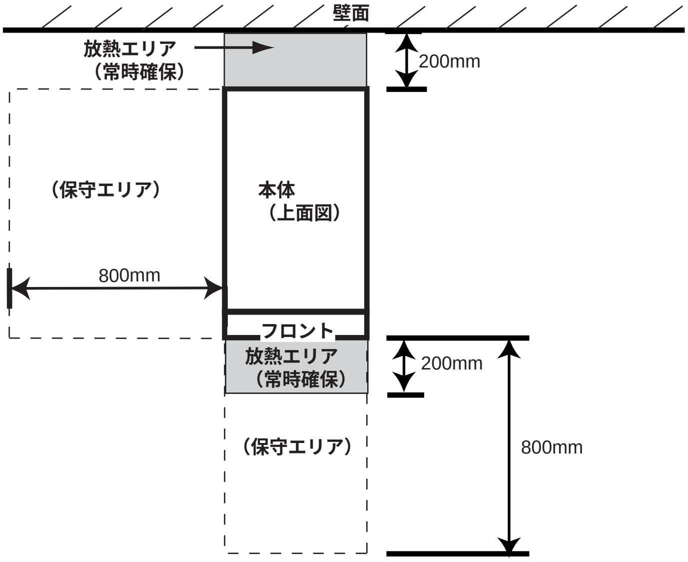
塵埃（ほこり、ちりなど）は磁気媒体やヘッドを傷つけたり、接触不良を起こす原因となります。また、腐食性有害物質および湿気との相乗作用により装置に悪影響を与えるため、空調機を装備したエアフィルタで塵埃を除去するなどの対策が必要です。特に、フロッピィディスクドライブ、CD-ROM ドライブユニット、光磁気ディスクユニット、DAT ユニットなどの磁気テープ装置を使用する場合、ヘッドや媒体に付着した塵埃がリードエラーやライトエラーの原因となるため、定期的なクリーニングを行ってください。クリーニングの詳細は、「付録 D 日常のお手入れ」（→ 359 ページ）を参照してください。

■ サーバ本体環境条件

項目		設置条件
温度	動作時	10 〜 35 ℃
	休止時	- 5 〜 55 ℃
湿度	動作時	20 〜 80%RH（結露しないこと）
	休止時	
温度勾配	動作時	15 ℃ /hr 以下（結露しないこと）
	休止時	
AC 入力条件	電圧	AC100 〜 120V
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m^3 以下

■ 設置スペース

本サーバを設置するときは、以下のスペースを確保してください。



なお、ラックの設置スペースについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

2.2.3 サーバ本体のラックへの搭載手順

ラックマウントタイプは、ラックに搭載して運用します。
ここでは、サーバ本体をラックに搭載する手順について説明します。

⚠注意

- **サーバ本体をラックに搭載したりラックから取り外す場合は、担当保守員に連絡してください。**
- **24U を超えるラックにサーバ本体を搭載する場合は、高さ 24U 以下に搭載してください。**

⚠警告

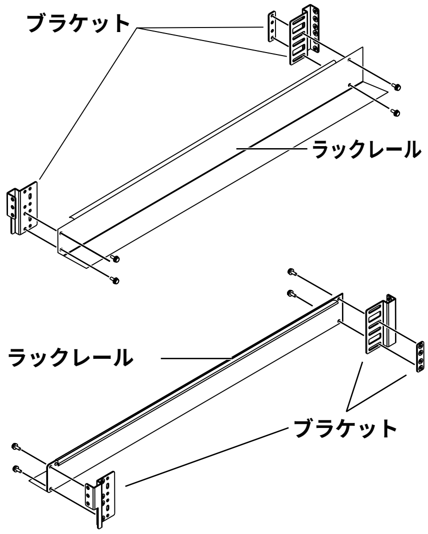
感 電

取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。
感電したり機器が故障するおそれがあります。

■ 搭載手順

1 **レールブラケットを組み立てます。**

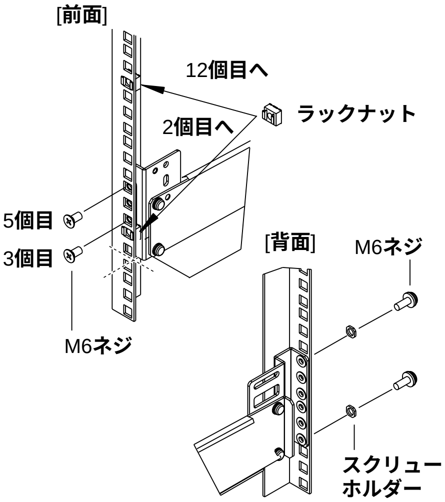
レールブラケットを、図のように M5 ネジ前後各 2 本で組み立てます。



2 レールとラックナットをラックに取り付けます。

本サーバは 5U 使用します。レールは、サーバ本体を取り付ける位置の下から 3 個目と 5 個目の位置に M6 ネジで取り付けます。前面は M6 ネジのみ、背面はスクリューホルダーと共に M6 ネジで取り付けてください。

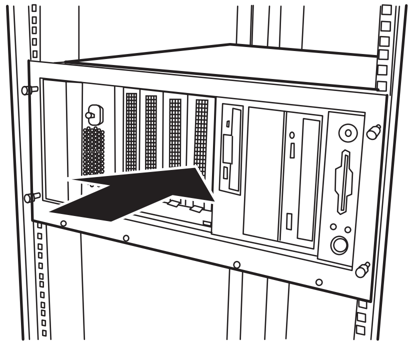
ラックナットは、サーバ本体を取り付ける位置の下から 2 個目と 12 個目の位置に、ラックレールの内側からツメを引っ掛けて取り付けます。



3 サーバ本体をラックに取り付けます。

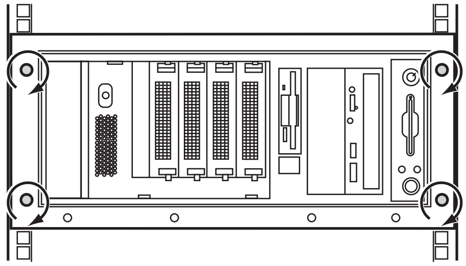
サーバ本体を持ち、後方にスライドさせます。

ラックに取り付ける際は、サーバ本体をしっかりと持って、落とさないように取り付けます。



4 サーバ本体とラックを固定します。

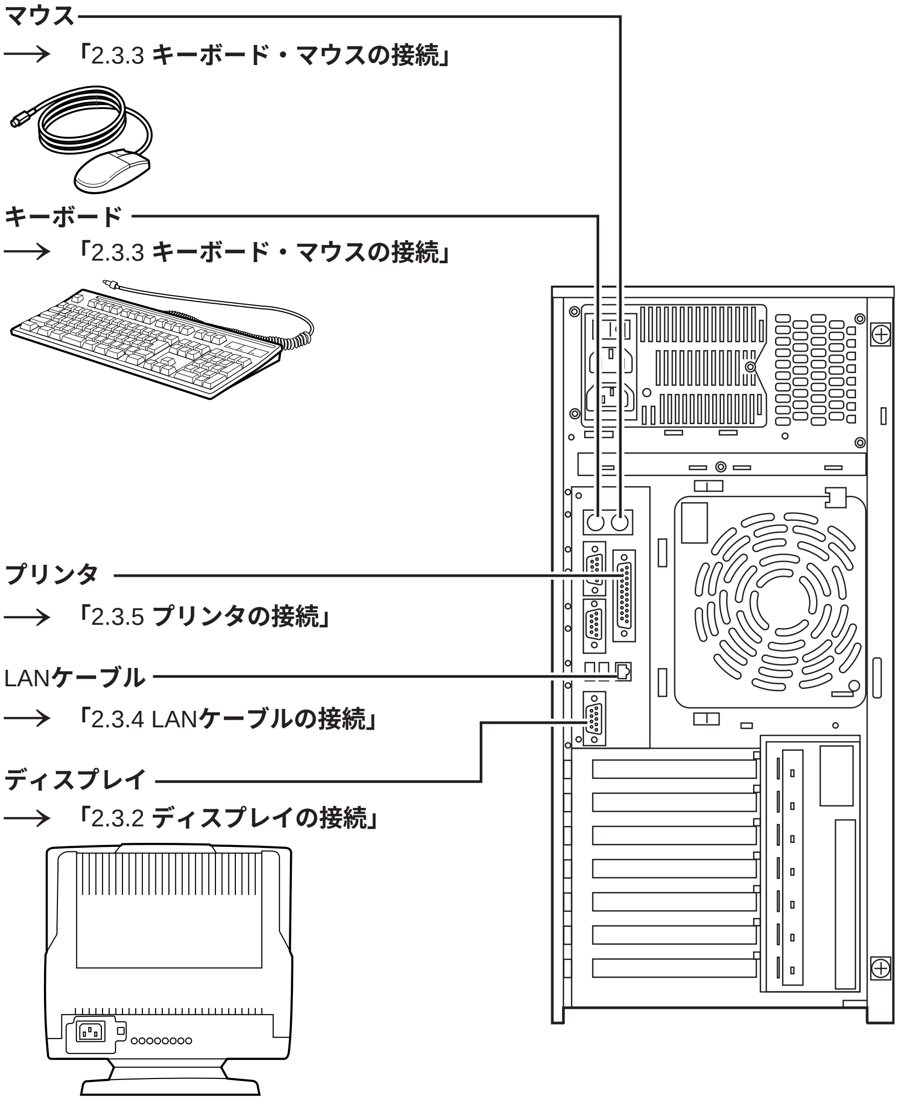
サーバ本体とラックを 4 本のネジで固定します。



2.3 接続方法

2.3.1 接続全体図

以下は、背面から見た接続全体図です。各周辺装置の接続方法は、各項をご覧ください。



2.3.2 ディスプレイの接続

⚠警告

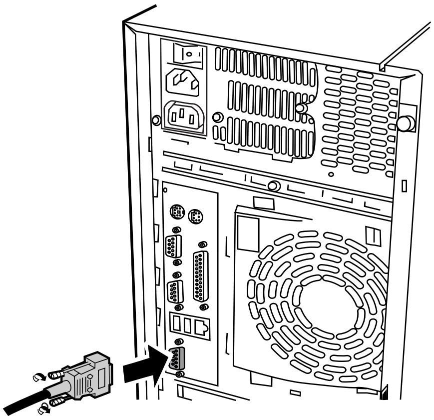
感電

- **接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。**
  感電の原因となります。
- **電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。**
  感電の原因となります。

ディスプレイの接続方法は、以下のとおりです。

1 **ディスプレイケーブルをサーバ本体に接続します。**

ディスプレイケーブルのコネクタを、サーバ本体のディスプレイコネクタに接続します。ディスプレイケーブルのコネクタのネジをしめます。



2 **ディスプレイケーブルをディスプレイに接続します。**

ディスプレイへの接続は、ディスプレイに添付の取扱説明書を参照してください。

3 **ディスプレイの電源ケーブルをコンセントに接続します。**

⚠注意

ラックマウントタイプをご使用の場合、ラックの上にディスプレイを置かないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下してけがの原因となります。
また、本サーバが故障したり誤動作したりする場合があります。

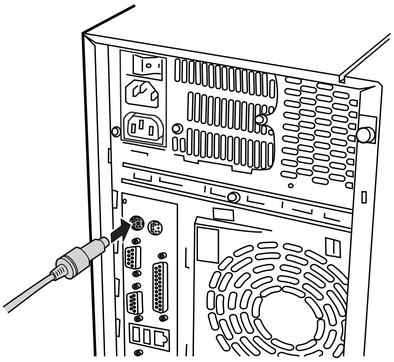
2.3.3 キーボード・マウスの接続

> **⚠警告**
>
> 感電
>
> **接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。**
> **感電の原因となります。**

■ キーボードの接続

1 キーボードケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のキーボードコネクタ（ ）に接続します。

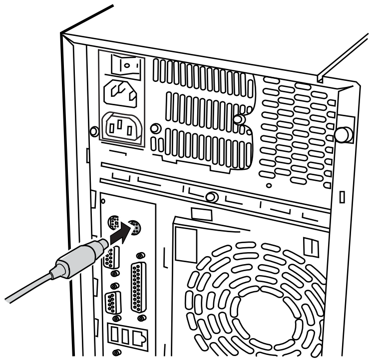
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。



■ マウスの接続

1 マウスケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のマウスコネクタ（ ）に接続します。

このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。

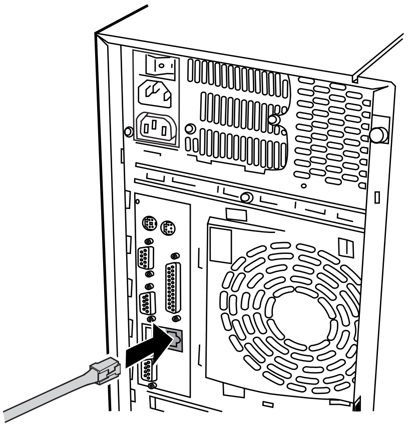


2.3.4　LAN ケーブルの接続

本サーバの LAN ケーブルを接続します。

1　**LAN ケーブルをサーバ本体に接続します。**

LAN ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面の 10/100BASE-TX コネクタに接続します。



2　**LAN ケーブルをハブやルータなどに接続します。**

もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

2.3.5　プリンタの接続

⚠警告

禁止

本サーバは Microsoft 社との契約上、プリンタサーバとしてご使用いただくことはできません。

2.3.6　電源ケーブルの接続

周辺装置の接続を終えたら、本サーバの電源ケーブルを接続します。

⚠警告

禁止

- **濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。**
  感電の原因になります。
- **電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。**
- **電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。**

指示

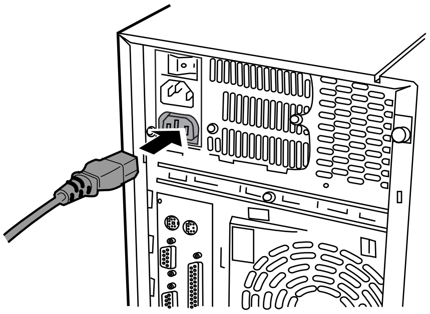
- **電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。**
- **電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。**
  故障・火災の原因となります。

感電

電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
感電の原因となります。

1　電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

電源ケーブルのプラグを、本サーバのインレットに接続します。



2　電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグを、コンセントに接続します。
コンセントが 2 ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付け、アダプタプラグについているアース線をコンセントの FG ネジに接続します。その後、コンセントに接続します。

⚠警告

プラグ

- **近くで雷が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。**

⚠注意

プラグ

- **プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。**
  電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災、感電の原因となります。
- **プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。**
- **長時間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。火災・故障の原因となります。**

第 3 章　基本的な操作

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピィディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

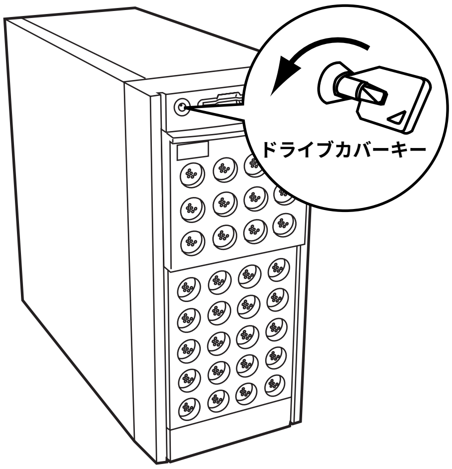
Contents

3.1 **ドライブカバーのスライド** 32
3.2 **ラックドアを開ける** 33
3.3 **電源を入れる** 35
3.4 **電源を切る** 36
3.5 **フロッピィディスクのセット／取り出し** 37
3.6 CD-ROM **のセット／取り出し** 40

3.1 ドライブカバーのスライド

ドライブカバーのスライド方法は、以下のとおりです。

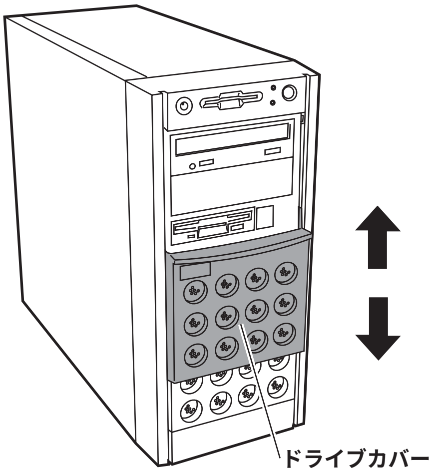
1 **ドライブカバーキーを左に回し、ロックを解除します。**



2 **ドライブカバーをスライドします。**

フロッピィディスクドライブやCD-ROM ドライブ、5 インチドライブオプションにアクセスする場合は、ドライブカバーを下側にスライドします。

ハードディスクドライブの増設時や交換時には、上側にスライドします。



ポイント

ドライブカバーキーは装置ごとに異なります。紛失しないように注意してください。
紛失した場合は、ロック部の破壊が必要であり、部品の有償交換となりますので、ドライブカバーキーの管理については充分ご注意願います。
なお、万が一ドライブカバーキーを紛失された場合は、担当営業員までご連絡ください。

3.2 ラックドアを開ける

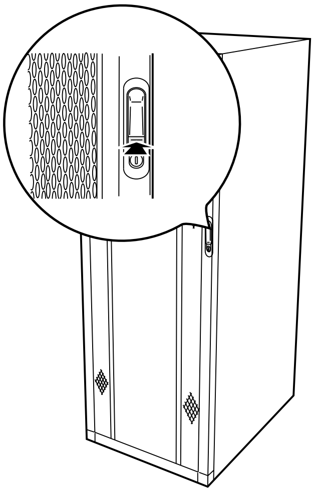
ラックマウントモデルの場合は、本サーバをラックに搭載できます。ラックには、フロントドアとリアドアがあります。

ここでは、フロントドアおよびリアドアを開ける方法について説明します。他のラックについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

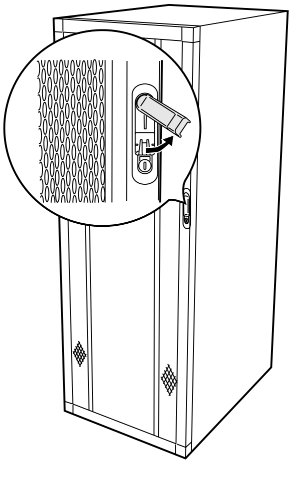
3.2.1 フロントドアの開け方

1 **ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。**

ラックハンドルが前に上がります。



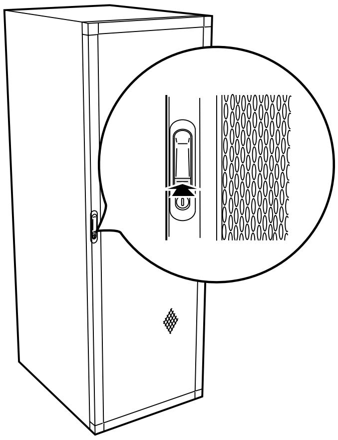
2 **ラックハンドルを右側に回して、手前に引きます。**



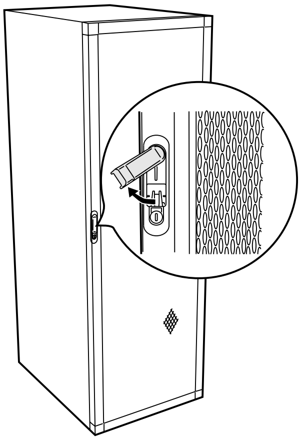
3.2.2 リアドアの開け方

1 **ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。**

ラックハンドルが前に上がります。



2 **ラックハンドルを左側に回して、手前に引きます。**



ポイント

- **通常の使用時（媒体の出し入れ、電源の ON/OFF 以外）には、ラックドアを閉めた状態でご使用ください。携帯電話などの外部からの電波を防ぎます。**
- **ラックキーは、紛失しないように注意してください。紛失した場合は、担当営業員に連絡してください。**

3.3　電源を入れる

⚠注意

禁止

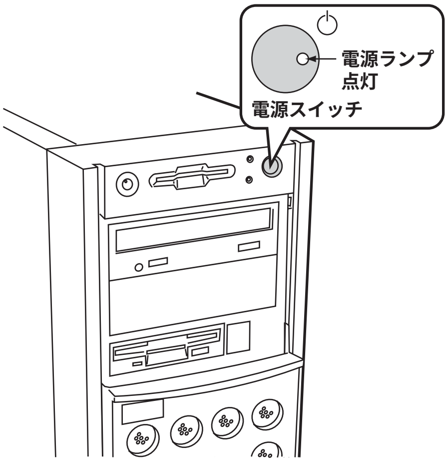
電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。

1　**フロッピィディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。**

2　**ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。**

3　**サーバ本体前面の電源スイッチを押します。**

サーバ本体の電源ランプが緑色に点灯します。
電源が入ると、本サーバはサーバ本体の装置をチェックする「POST（Power On Self Test: パワーオンセルフテスト）」を行います。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。（「付録 E 故障かな？と思ったときには」（→ 371 ページ）の「付録 E.2 エラーメッセージ」（→ 375 ページ）を参照してください。



ポイント

添付の ServerView **を使って、サーバ本体の電源の投入／切断時刻を設定できます。**
詳細は ServerView **のマニュアルを参照してください。**

⚠注意

- **サーバ本体環境条件の温度条件** (10 ～ 35 ℃) **の範囲内で電源の投入を行ってください。サーバ本体の環境条件については「**2.2.2 **設置環境および設置条件」（**→ 21 **ページ）を参照してください。**
  サーバの保証温度範囲内で使用しないと「データの破損」や「動作が不安定になる」などの問題が発生する場合があります。
  サーバ本体を動作保証温度範囲外で使用した場合の破損や故障が発生しても当社は一切の責任を負いません。

3.4 電源を切る

⚠注意

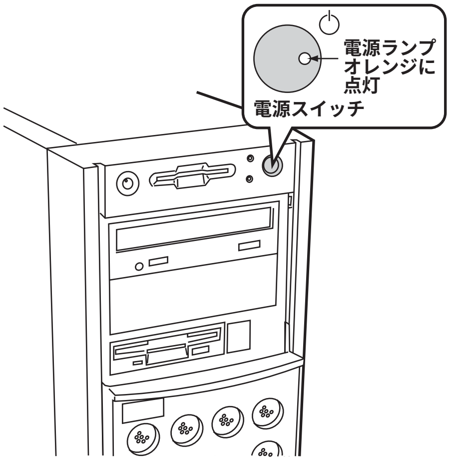
- **以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。**
- **発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  火災・感電の原因となります。

1 **フロッピィディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。**

2 **OS を終了します。**

OS 終了後サーバ本体の電源が切れます。

サーバ本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。



3 **ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。**

ポイント

添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入／切断時刻を設定できます。
詳細は ServerView のマニュアルを参照してください。

■ 電源切断時の注意事項について

電源スイッチの動作モードは、OS の設定により「スタンバイ」、「休止」、「シャットダウン」の指定ができます（通常は「シャットダウン」）。

本サーバでは、スタンバイ／休止機能は、BIOS ／ハードウェアの機能としてサポートしていますが、本サーバに搭載される一部のドライバ／ソフトウェアでは、当機能をサポートしていません。このため「スタンバイ」と「休止」機能については、本サーバではご使用できません。

また、運用中に「スタンバイ状態」または「休止状態」に移行した場合、システムが不安定になったり、ハードディスクのデータが破壊されたりするおそれがあります。

3.5 フロッピィディスクのセット／取り出し

フロッピィディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.5.1 取扱い上の注意

⚠注意

フロッピィディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

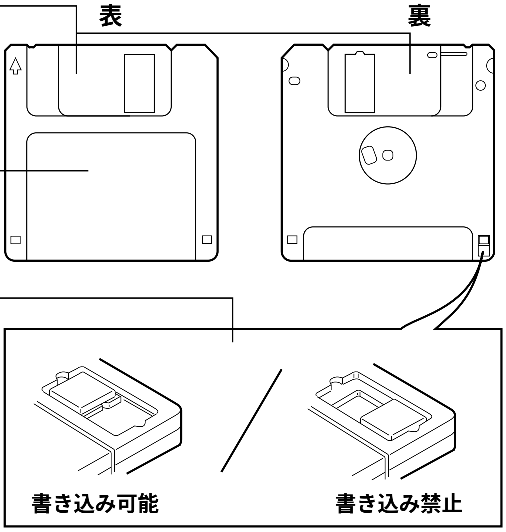
- **コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。**
- **シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。**
- **曲げたり、重いものをのせたりしないでください。**
- **磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **固い床などに落とさないでください。**
- **高温／低温の場所に保管しないでください。**
- **ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。**

■ フロッピィディスクの外観

シャッタ
フロッピィディスクをドライブにセットするとここが開き、データの読み・書きが行われます。

ラベル
記録してあるソフトウェア名や、データを記入してから貼ります。

ライトプロテクタ
フロッピィディスクへの書き込みを禁止します。書き込み禁止にするには、反対側が見えるようにライトプロテクタをスライドさせます。元に戻せば、再びデータの書き込みや消去ができます。

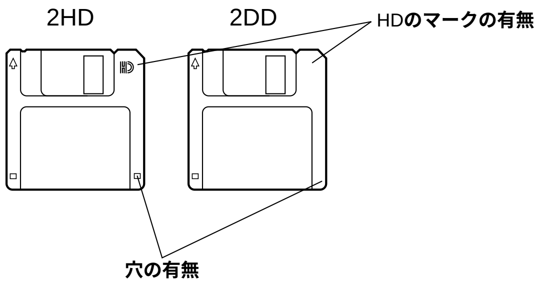


コラム

フロッピィディスクについて
本サーバでは以下の 2 種類のフロッピィディスクを使用できます。

- 2HD（記憶容量 1.44MB）
- 2DD（記憶容量 720KB）

2 種類の外見上の違いは、図のとおりです。

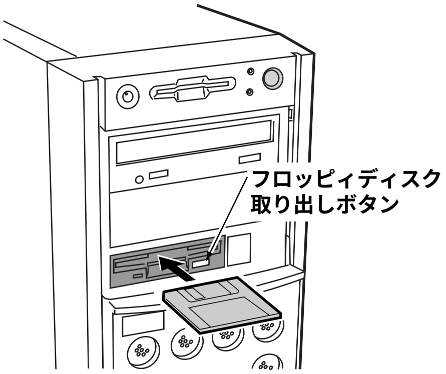


3.5.2　フロッピィディスクのセットと取り出し

■ フロッピィディスクのセット

1　**ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピィディスクドライブに差し込みます。**

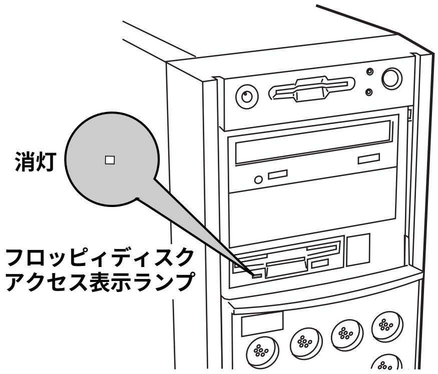
カシャッと音がし、フロッピィディスク取り出しボタンが飛びだします。



■ フロッピィディスクの取り出し

1　**フロッピィディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。**

フロッピィディスクが出てきます。



⚠注意

指示

フロッピィディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピィディスクを取り出さないでください。フロッピィディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

3.6 CD-ROM のセット／取り出し

CD-ROM のセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.6.1 取扱い上の注意

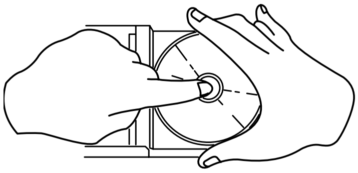
⚠注意

指示

故障などを防ぐため、内蔵 CD-ROM ドライブユニットや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- **内蔵 CD-ROM ドライブユニット**
  - **湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。**
  - **衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。**
  - **トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。**
  - **トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。**
  - **CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。**
  - **トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いたやわらかい布をご使用ください。**
  - **長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。**

- CD-ROM
  - ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダーを押さえながら持ち上げてください。

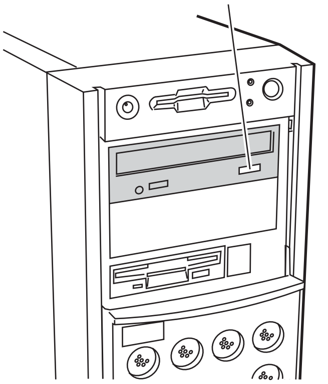


  - CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
  - CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
  - CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
  - 熱を加えないでください。
  - 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
  - レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
  - レーベル面にラベルなどを貼り付けないでください。偏芯によって異常振動が発生するおそれがあります。
  - 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。
  - ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
  - 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

3.6.2 CD-ROM のセットと取り出し

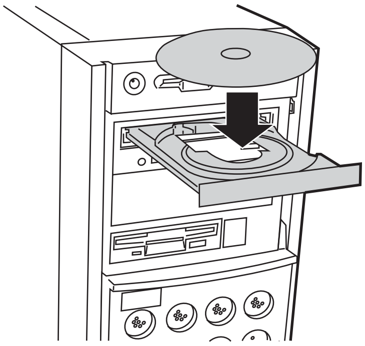
1 **サーバ本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタン（EJECT）を押します。**

トレイが出てきます。



2 **CD-ROM のレーベル面を上にして、トレイ中央に置きます。**

サーバ本体をラックに搭載している場合は、CD-ROM が落ちないようにセットしてください。

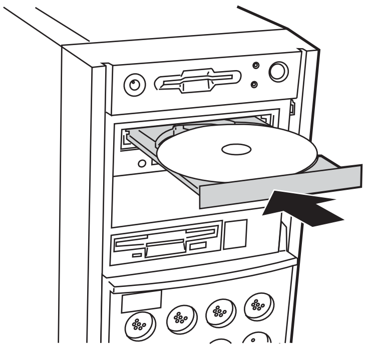


⚠注意

CD-ROM の装着が不十分なまま CD-ROM トレイを閉めると、CD-ROM ドライブや CD-ROM の破損となるおそれがありますので注意してください。

3　CD-ROM 取り出しボタン（EJECT）を押します。

トレイが格納されます。



取り出しも、上記のように CD-ROM 取り出しボタン（EJECT）を押して行います。

ポイント　**本サーバの内蔵 CD-ROM ドライブユニットでは、下図のマークがついた CD-ROM をご利用になれます。**

第 4 章　セットアップ

この章では、本サーバを運用するまでの流れと、設定操作について説明します。

4

セットアップ

Contents

4.1 **セットアップの概要** 46

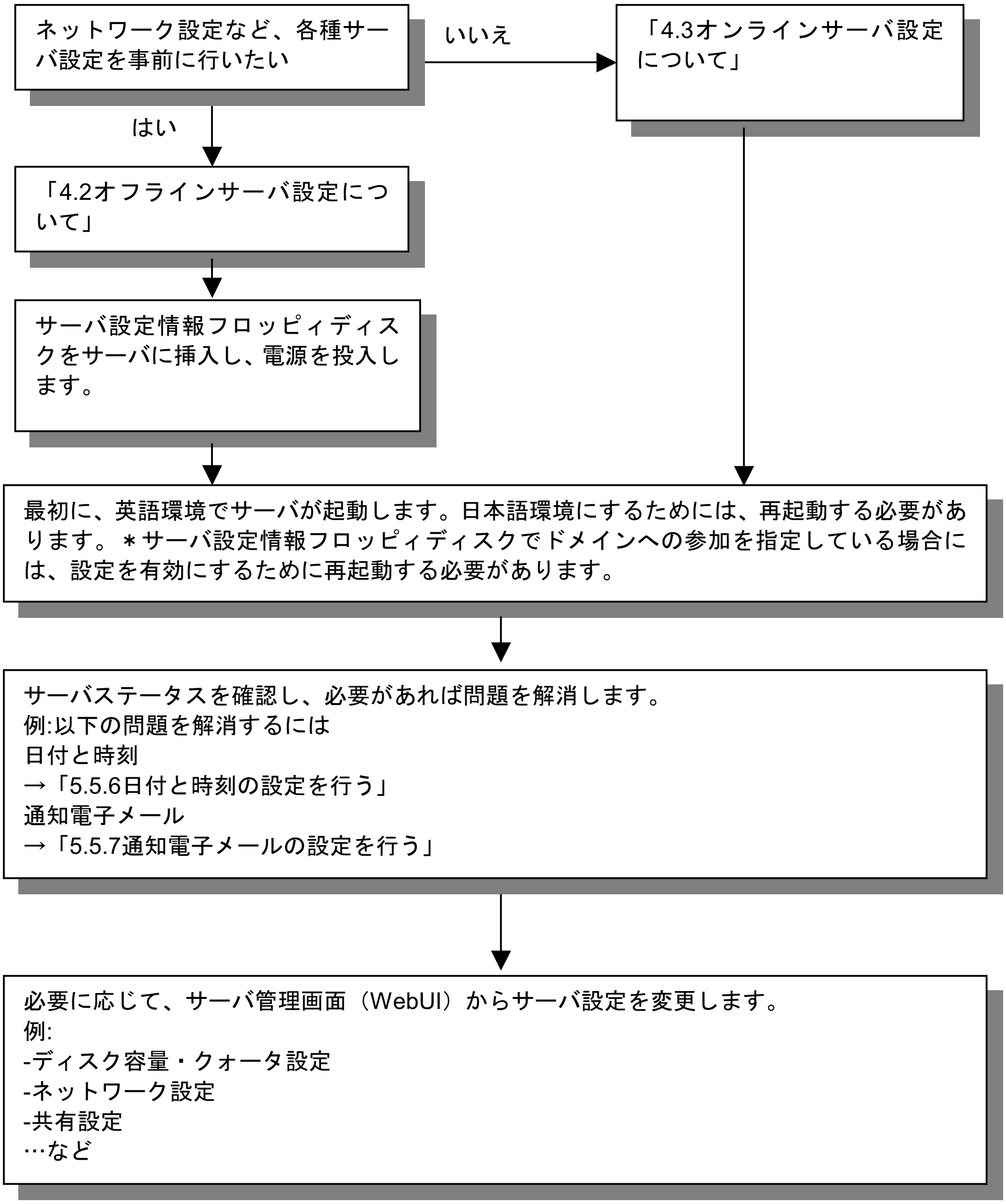
4.2 **オフラインサーバ設定について** 49

4.3 **オンラインサーバ設定について** 72

4.1 セットアップの概要

PRIMERGY FileServer は、業界標準のハードウェアとソフトウェアを同梱しており、導入までの手順と時間を短縮することができます。

また、本サーバはあらかじめすべての OS ／ソフトウェアの運用に必要なパラメータをプレインストール設定し、出荷しております。このため、このままでもお客様の環境ですぐに稼動させることが可能です。以下に運用までの大まかな流れを記述します。



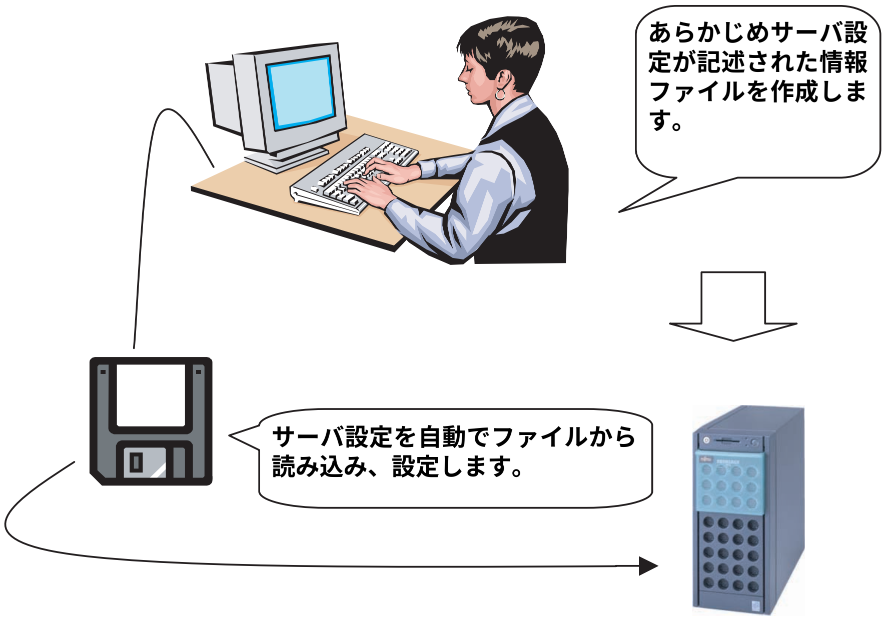
4.1.1　オフラインサーバ設定とオンラインサーバ設定

お客様の運用環境により、またストラテジ展開の中で、事前にプレインストール設定からカスタムパラメータ値への変更が必要となる場合が考えられます。このため、リカバリ CD2 枚目の Tools フォルダには、事前にパラメータ設定できる導入支援ツール「DesignMagic for FileServer」が用意されております（オフラインサーバ設定用）。

また、Web ブラウザを通じて、プレインストールされたパラメータをカスタマイズできる「WebUI」も用意されております（オンラインサーバ設定用）。

このように PRIMERGY FileServer では、オフラインサーバ設定／オンラインサーバ設定の 2 つの導入方法が可能です。

■ オフラインサーバ設定



導入支援ツールを使ったサーバ導入

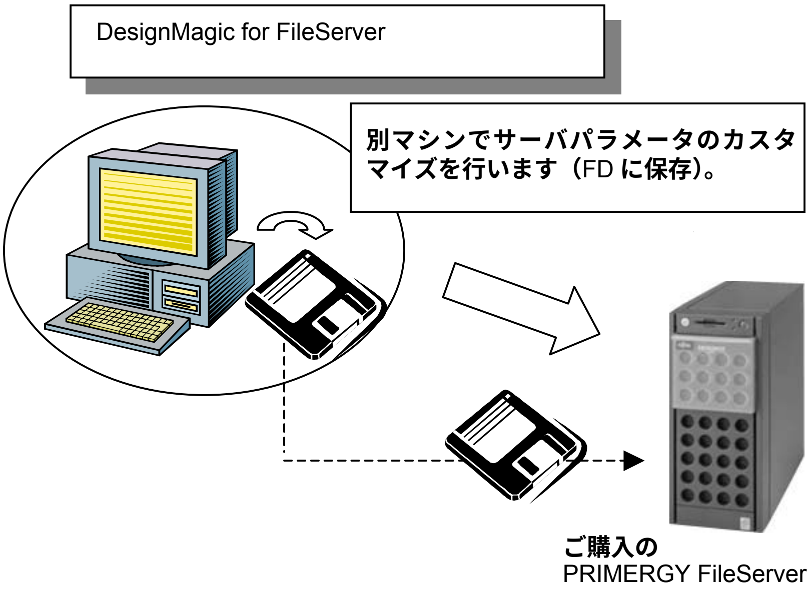
■ オンラインサーバ設定

Web ブラウザによるオンラインサーバ導入

以降では、これら 2 つの導入方法の違いと利点に関して、詳細に説明します。

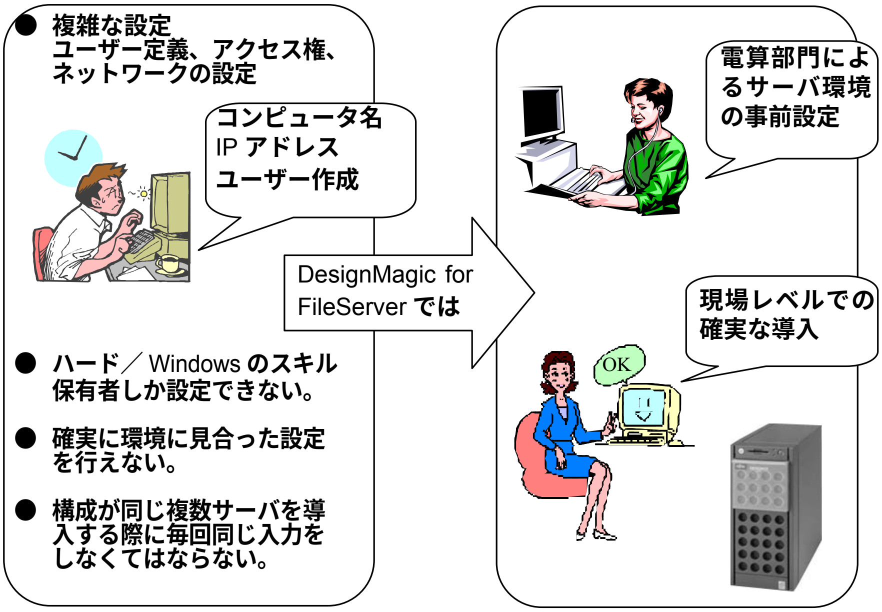
4.2　オフラインサーバ設定について

DesignMagic for FileServer は、PRIMERGY FileServer の初期導入を支援する、簡易セットアップツールです。DesignMagic for FileServer は、既にコンフィグレーション済みのパラメータのカスタマイズ設定を実現します。



DesignMagic for FileServer **の特長**

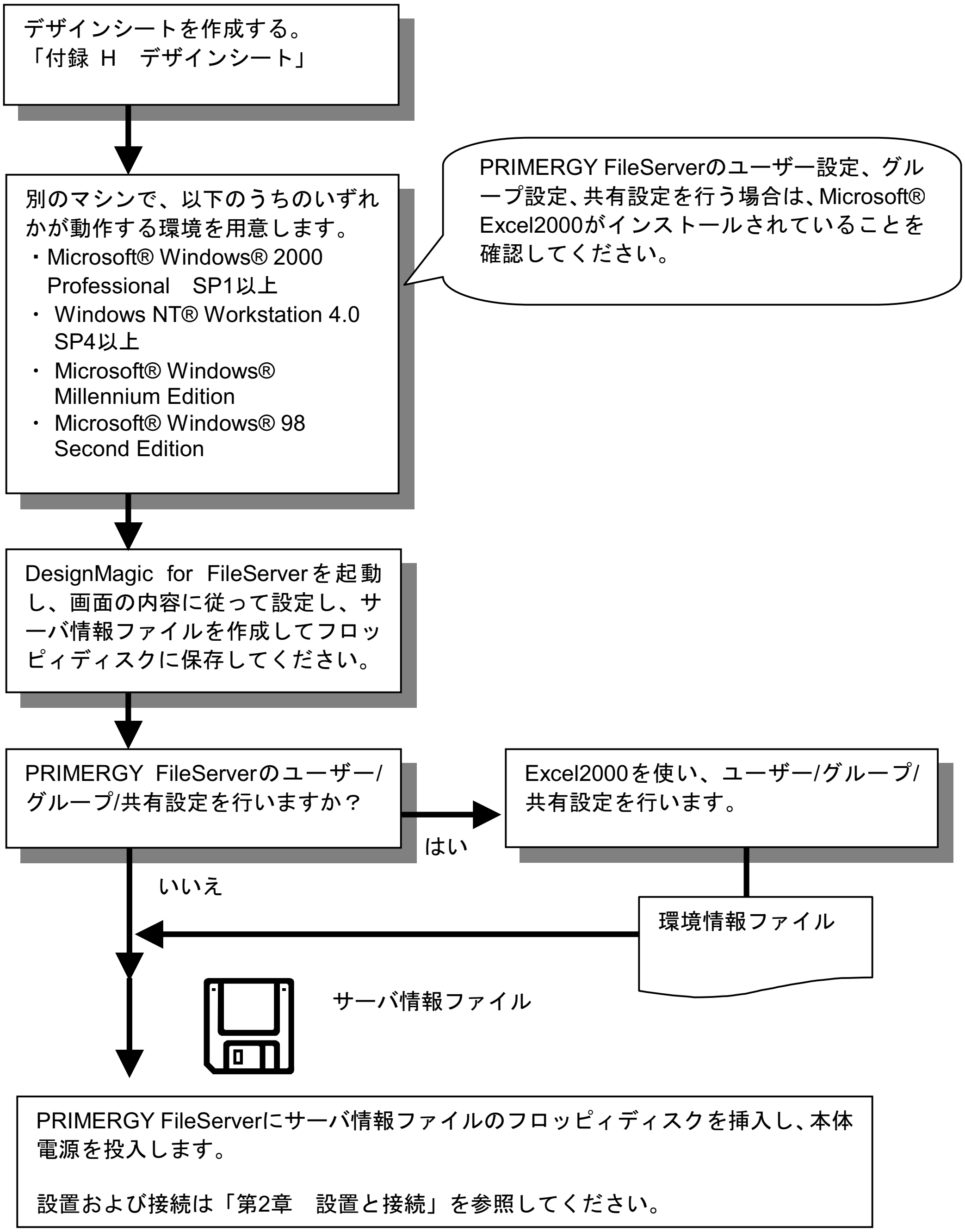
事前設定により、運用後のサーバ設定の煩雑さを改善し、お客様環境での運用に必要な設定を確実に、短期間で行うことができます。



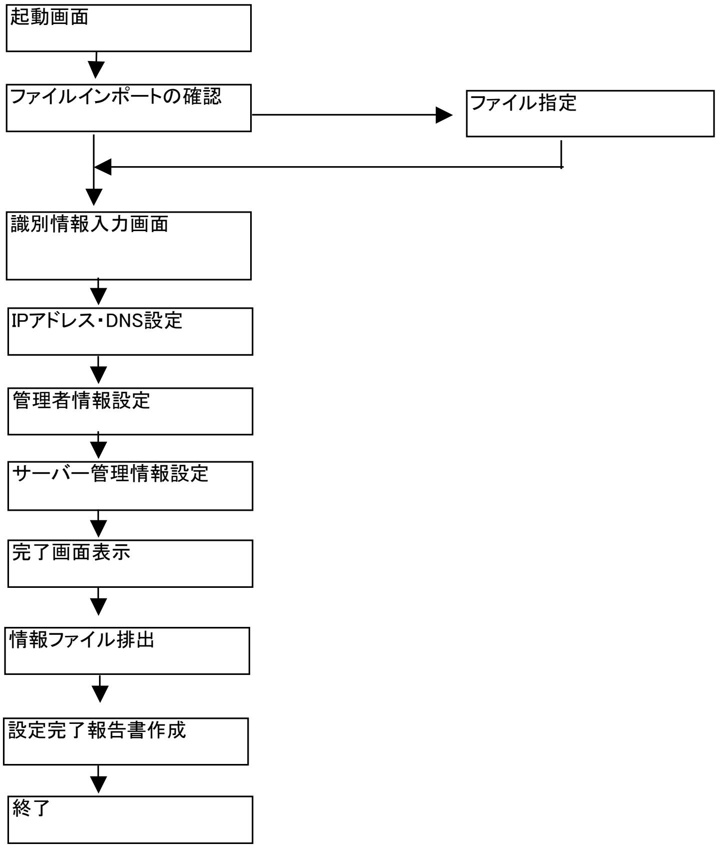
● DesignMagic for FileServer **でインストールした後の変更は…**

インストール後のサーバ運用に関する変更は、オンラインサーバ管理で行います。
詳細は「第 5 章　PRIMERGY FileServer の運用・管理について」をご覧ください。

4.2.1　DesignMagic for FileServer でのセットアップ手順

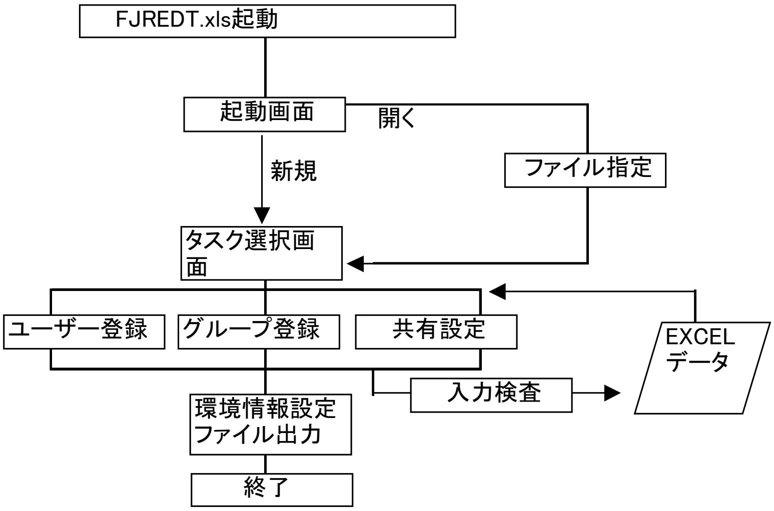


4.2.2　DesignMagic for FileServer でのサーバ設計の流れ



詳しい操作手順は、「4.2.4 サーバ情報を設定する」をご覧ください。

4.2.3 DesignMagic for FileServer での環境情報設定の流れ



詳しい操作手順は、「4.2.5 PRIMERGY FileServer の環境情報設定を行う」をご覧ください。

4.2.4 サーバ情報を設定する

DesignMagic for FileServer は、以下のうちのいずれかのオペレーティングシステムがインストールされているマシンで操作を行います。

- Microsoft® Windows® 2000 Professional　SP1 以上
- Windows NT® Workstation 4.0 SP4 以上
- Windows® ME
- Windows® 98 SE

■ 準備

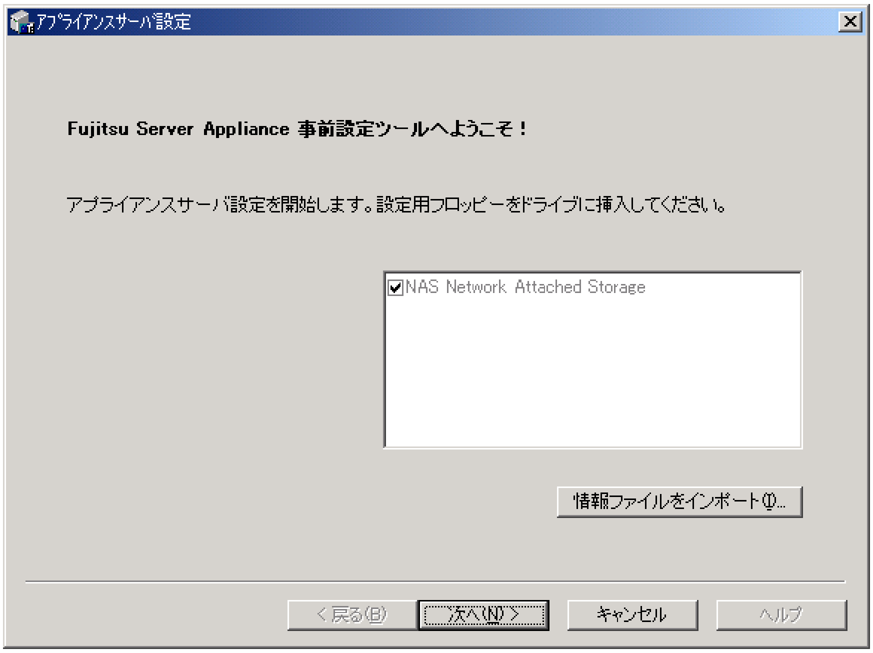
他のアプリケーションなどが起動している場合は、終了してください。

■ 操作手順

1 FJSWAPP.exe を起動する

(1) リカバリ CD の 2 枚目をセットし、Windows の Explorer で、「Tools」フォルダの「FJSWAPP.exe」をダブルクリックします。

DesignMagic for FileServer の起動画面が表示されます。



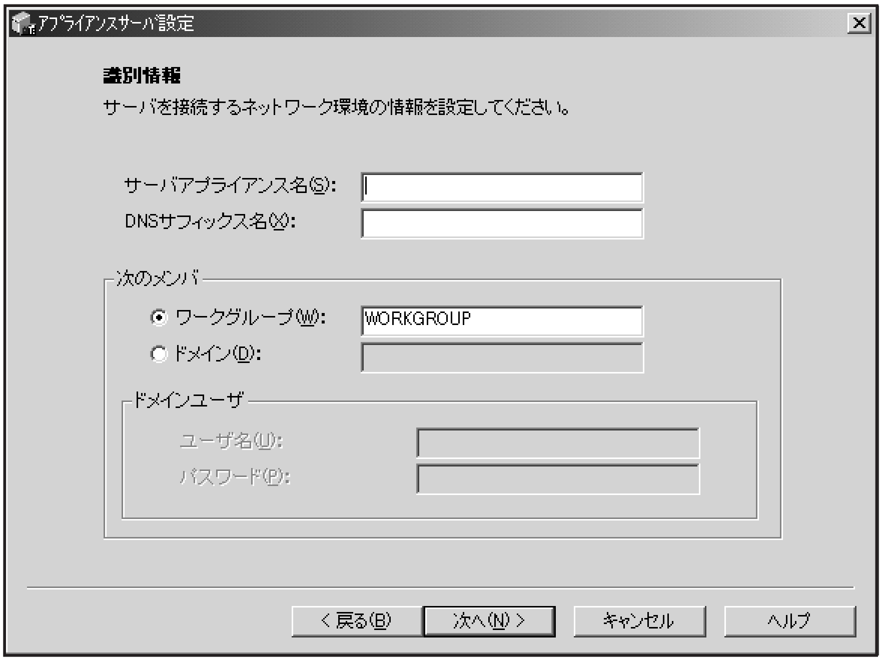
*NAS Network Attached Storage は、システム形態を意味し、PRIMERGY FileServer の製品でのみ利用可能です。

(2) **必要な情報をセットし、[次へ] をクリックします。**

ー 既に情報ファイルを設定しており、その修正などを行う場合は、[情報ファイルをインポート] をクリックし、情報ファイルを指定してください。

※ 情報ファイルはフロッピィディスクドライブからしか読みとれません。
情報ファイルの入ったフロッピィディスクを挿入して [情報ファイルをインポート] をクリックしてください。

2 識別情報を入力する



(1) **サーバアプライアンス識別情報で、サーバアプライアンス名および DNS サフィックス名とサーバのメンバ設定を行います。**

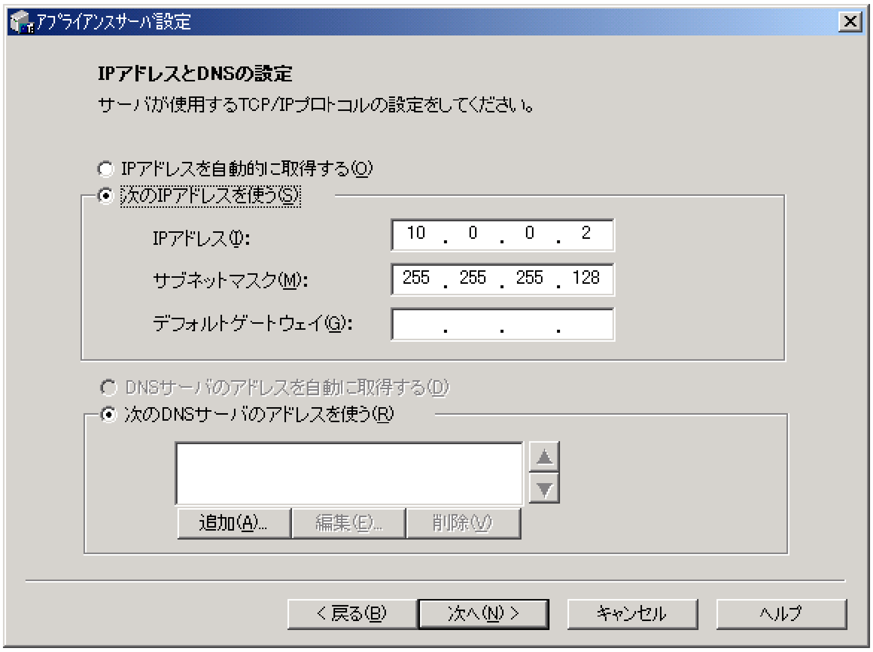
サーバをドメインに参加させるためには、あらかじめドメインコントローラにコンピュータアカウントの登録を行う必要があります。
また、サーバを登録する権限のあるユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
必要な手続きおよび詳細な情報については、貴部門ネットワーク管理者までお尋ねください。
DNS サフィックスは、設定後管理 Web 画面で確認できない場合がありますが、コンピュータ上には正しく反映されています。

(2) **必要な設定を行い、[次へ] をクリックします。**

※ 各項目の詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

3　ネットワーク設定を行う

PRIMERGY FileServer では「10.0.0.2」の固定 IP アドレスをプレインストール設定しております。
お客様の環境に適合するよう、設定を変更してください。



（1）　**TCP/IP の設定を行います。**

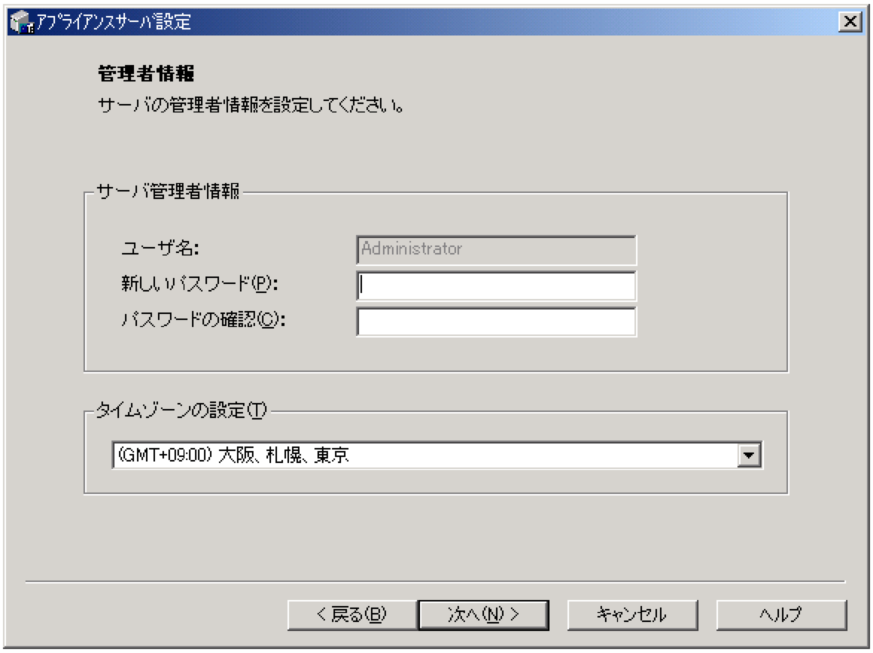
※ 各項目の詳細については、［ヘルプ］をクリックしてください。

> **⚠注意**
>
> **ServerView を使用するためには、IP アドレスを固定にしている必要があります。**
> **必ず「次の IP アドレスを使う」を選択してください。**

ー オンボード以外の LAN カードを使用する場合は、カードごとの IP アドレスを指定することはできません。プレインストールで自動的に IP アドレスを取得する設定になっています。
これらの設定を変更したい場合は、オンラインコンフィグレーションを行う必要があります。
詳細は、「4.3 オンラインサーバ設定について」および「第 6 章　ネットワーク環境設定」をご覧ください。

（2）　**設定が終了したら、［次へ］をクリックします。**

4　管理者情報を入力する



(1)　**サーバにログインするためのサーバ管理者名とパスワードの設定を行います。**

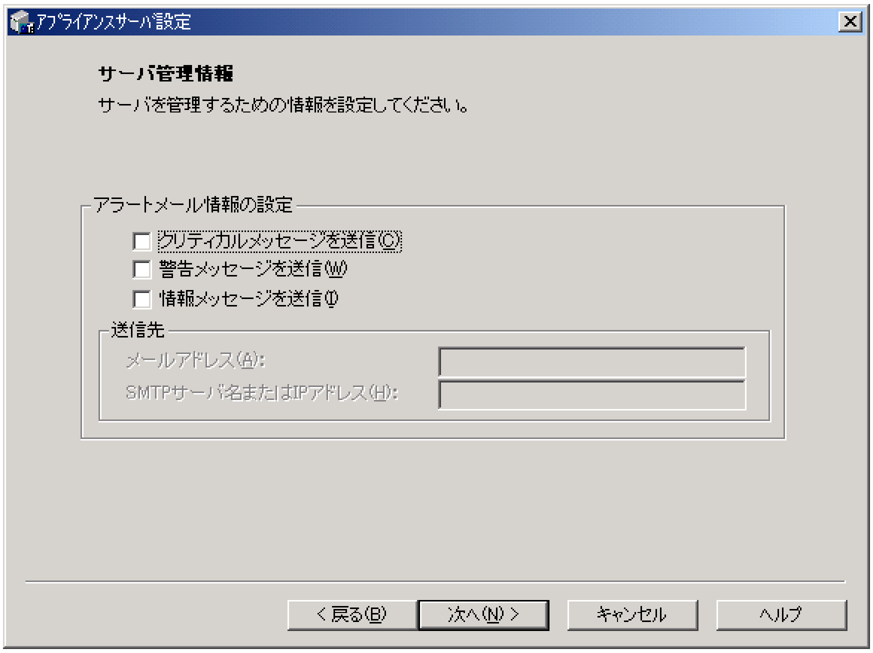
また、サーバのタイムゾーンの設定を行うこともできます。

※ 各項目の詳細については、［ヘルプ］をクリックしてください。

(2)　**必要な情報を設定したら、［次へ］をクリックします。**

※ タイムゾーンの設定は、一番最初に管理 Web 画面に接続する場合に、警告が表示されます。かならずタイムゾーンが反映されていることを確認してください。
詳細な手順は、「5.5.6 日付と時刻の設定を行う」を確認してください。

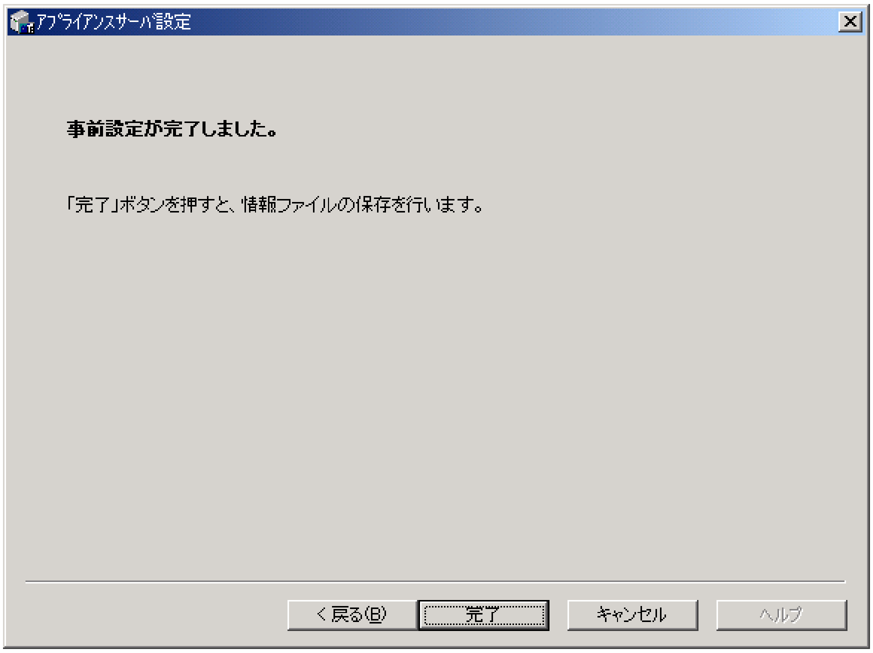
5　サーバ管理情報を入力する



（1）　必要な情報を設定したら、［次へ］をクリックします。

※ アラート情報設定を事前に行った場合でも、初回管理 Web 接続時に警告表示はされます。かならずテストメールが送信されることを確認してください。
詳細な手順に関しては、「5.5.7 通知電子メールの設定を行う」を参照してください。

6　設定情報を保存する



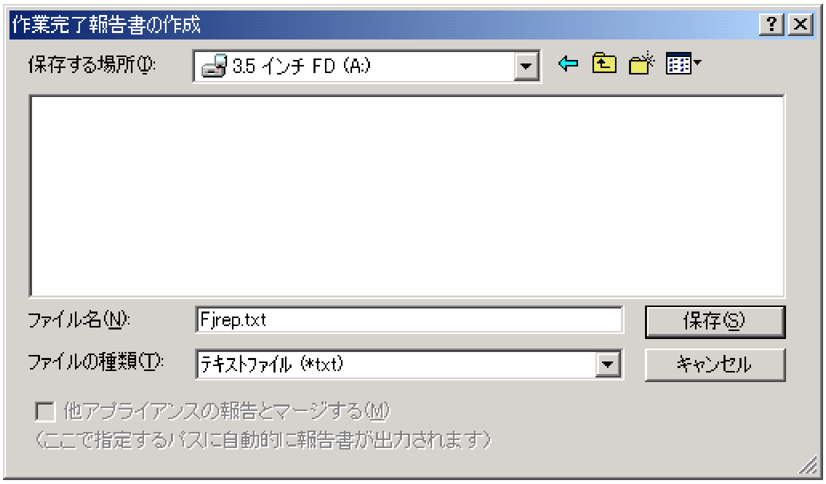
(1)　[完了] をクリックします。保存用フロッピィディスクが挿入されていない場合は、挿入要求画面が表示されます。保存用フロッピィディスクをセットし、[OK] をクリックします。

※ サーバ設定ファイルは、フロッピィディスクにのみ保存できます。

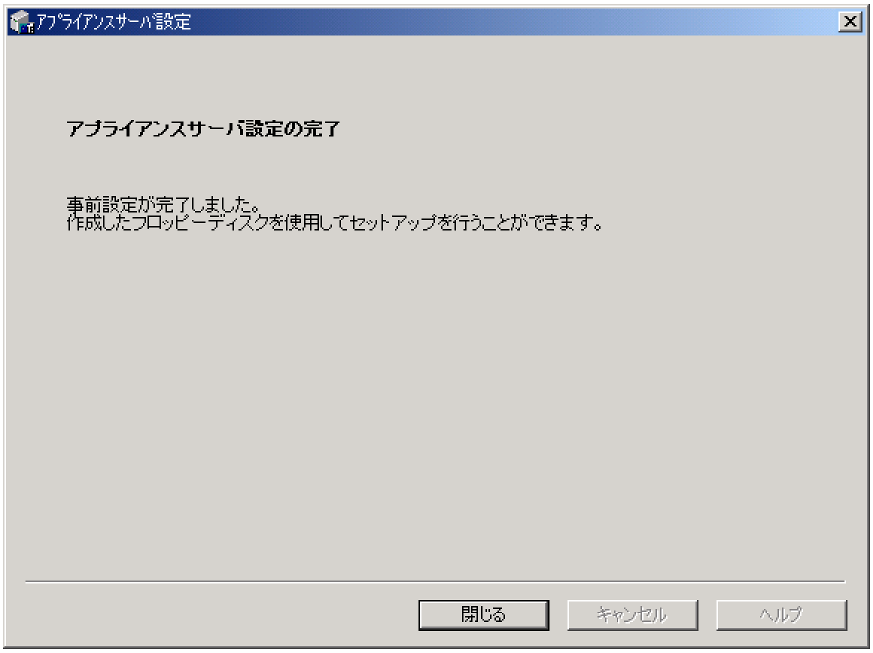
(2)　サーバ設定ファイルがフロッピィディスクに保存されます。

7 作業完了報告書の出力先を指定する

作業完了報告書ファイルは、これまで設定した PRIMERGY FileServer 設定の完了報告として出力されます。



(1) **作業完了報告書ファイルの保存先を指定します。**



これで事前設定はすべて終了です。

(2) **[閉じる] をクリックし、ツールを終了します。**

「4.1 セットアップの概要」をよくお読みの上、引き続き PRIMERGY FileServer を設定します。

4.2.5　PRIMERGY FileServer の環境情報設定を行う

PRIMERGY FileServer の環境情報設定は、ローカルユーザー・ローカルグループおよび共有ファイルの設定に関して行うことができます。
本機能を使うには、Microsoft® Excel2000 がインストールされている必要があります。

■ 操作手順

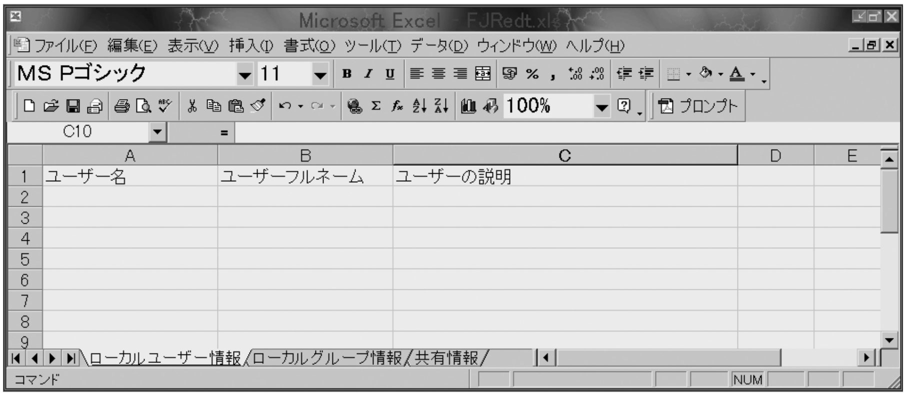
1　環境設定ファイルを起動する

(1)　**リカバリ CD の 2 枚目をセットし、「Tools」フォルダの「FJRedt.xls」をダブルクリックします。**

(2)　**［マクロ機能を有効にする］をクリックします。**

※ マクロ機能のウイルスチェックは、弊社にて検証済です。

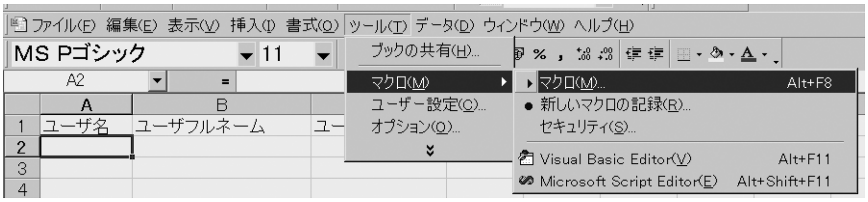
Excel シートが表示されます。



2　マクロを実行し、メイン画面を表示する

ローカルユーザー情報・ローカルグループ情報・共有ファイル情報などの環境情報を設定するためには、Excel マクロを実行する必要があります。
マクロを実行するには、以下のように行います。

(1)　**［ツール］メニューから［マクロ］を選択し、［マクロ］をクリックします。**



次の画面が表示されます。

（2） Envtoolstart **マクロを選択し、［実行］をクリックします。**

マクロが正常に実行されると、環境設定ツールのメイン画面が表示されます。

※ マクロが正常に動作しない場合は、次ページの「■マクロが動作しない場合」をご覧ください。

ボタン	内容
新規／編集	現在ある Excel シートの情報を編集したり、新規に作成することができます。
開く	保存されている環境情報ファイルの読み込みを行います。
保存	環境情報ファイルを保存します。
報告書の出力チェック	本機能は使用できませんのでご注意ください。
終了	Excel マクロを終了します。

■ マクロが動作しない場合

マクロが正常に動作しない場合は、以下の手順でライブラリコンポーネントの有無を確認し、不足している場合は、ライブラリをシステムにコピーしてください。

1 **ライブラリの有無を確認する。**

1 [Alt] + [F11] **キーを押し、**VBA **環境画面を起動します。**

2 **[ツール] メニューから [参照設定] を選択します。**

参照設定 -VBA Project - ウィンドウが表示されます。

3 **以下のライブラリが存在し、チェックされているか確認します。**

ー Microsoft XML, version 2.0

ー Microsoft Common DialogControl 6.0 (SP3)

上記のライブラリが参照できないと、マクロが正常に動作しません。

2 **ライブラリの参照設定を確認する。**

表示された、ライブラリが " 参照不可 " と表示されていた場合、または、ライブラリが見あたらなかった場合、ライブラリを入手してください。

ー Microsoft XML, version2.0

Microsoft Office2000 CD の system フォルダ

ー Microsoft Common DialogControl 6.0 (SP3)

リカバリ CD2 枚目「Tools」フォルダ

3 **ライブラリファイルをダウンロードしコピーする。**
ダウンロードしたライブラリファイルのコピー先は以下のとおりです。

※ %Systemroot% は、システムがインストールされているフォルダ（例えば C: \ WINNT）を表します。

Windows 2000・Windows Me **の場合：**

以下のファイルを、%Systemroot% \ system32 のフォルダ配下にコピーします。

COMDLG32.ocx

Windows NT4.0/98 **の場合：**

ー COMDLG32.OCX **を** %Systemroot% \ system32 **のフォルダ配下にコピーします。**

ー msxml.dll **を** %Systemroot% \ system32 **のフォルダ配下にコピーします。**

4 FJRedt.xls **を再開する。**

1 **リカバリ** CD2 **枚目の「**Tools**」フォルダから「**FJRedt.xls**」を起動します。エラーが起こった時点で■（停止）ボタンをクリックし、デバッグを中止します。**

2 [Alt] + [F11] **キーを押し、**VBA **環境画面を起動します。**

3 **以下のように参照します。**

Microsoft XML, version 2.0 **の場合**

［参照］をクリックし、System32 配下の msxml.dll を指定します。

Microsoft Common DialogControl 6.0（SP3）**の場合**

［参照］をクリックし、System32 配下の COMDLG32.OCX を指定します。

4 **現在のシートを破棄し、**FJRedt.xls **を再起動します。**

3 タスク選択画面を表示する

(1) ［新規／編集］または［開く］を選択し、環境設定を保存する Excel **シートを開きます。**

タスク選択画面が表示されます。

タスク選択画面では、ユーザー設定・グループ設定・共有設定を選択することができます。

4　ユーザー設定を行う

(1)　タスク選択画面で［ユーザー設定］を選択します。

ユーザー設定画面が表示されます。

(2)　以下の項目を入力します。

ー ユーザー名
ー フルネーム
ー 説明

※ 既にユーザーデータが挿入されている場合は、［上へ］［下へ］ボタンがアクティブになります。[上へ][下へ] ボタンをクリックすると、Excel シート上で行を移動し、既に登録されているユーザー情報を編集できます。

(3)　設定が終了したら、［適用］をクリックします。

ボタン	内容
OK	入力された設定をシートに反映し、タスク選択画面に戻ります。
キャンセル	入力された設定を破棄し、タスク選択画面に戻ります。
適用	入力された設定をシートに反映し、次のデータ入力を待ちます。
行削除	誤って設定したユーザーデータの削除を行います。

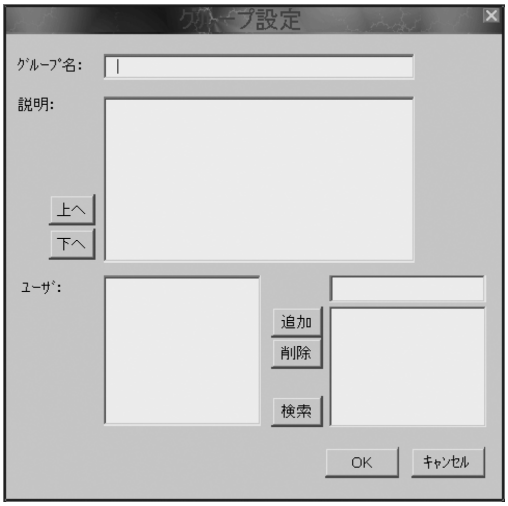
4

セットアップ

5　グループ設定を行う

（1）　タスク選択画面で［グループ設定］を選択します。

グループ設定画面が表示されます。



すでに、ユーザーを入力している場合は、検索ウィンドウに入力済みのユーザー一覧が表示されます。

ボタン	内容
追加	入力された、または一覧から選択されたユーザーをアクセスユーザー一覧ボックスに追加することができます。
削除	アクセスユーザー一覧ボックスに挿入されたユーザーを削除することができます。
検索	ユーザー一覧から、一定のキーワードのユーザーを検索する事ができます。

（2）　必要な項目を入力します。

グループ設定では、グループ名とグループの説明を記述することができます。
また、グループに属するユーザーを設定することができます。

※ 既にグループデータが挿入されている場合は、［上へ］［下へ］ボタンがアクティブになります。[上へ][下へ] ボタンをクリックすると、Excel シート上で行を移動し、既に登録されているグループ情報を編集できます。

（3）　設定が終了したら、［OK］をクリックします。

タスク選択画面に戻ります。

6　共有設定を行う

(1)　タスク選択画面で［共有設定］を選択します。

共有設定画面が表示されます。

(2)　共有名を入力します。

※ すでに共有データが入力されている場合は、［上へ］［下へ］ボタンがアクティブになります。[上へ][下へ] ボタンをクリックすると、Excel シート上で行を移動し、既に登録されている共有情報を編集できます。

(3)　［CIFS］［NFS］［HTTP］［FTP］から、設定するプロトコルを選択し、各プロトコルを設定します。

共有設定では、同一の共有名を使用して、共有プロトコル別の設定を行う事ができます。
以下では、それぞれのプロトコル別の設定を詳細に説明します。

ポイント

フォルダが存在しない場合に新規に作成する時は、フォルダ作成をチェックします。
フォルダ圧縮は指定したパーティション（ドライブ）が NTFS フォーマットされている場合のみ有効です。

⚠注意

本ツールでは以下の制限事項があります。

- **共有設定にて、任意の共有名とパスを入力後、任意のプロトコルのチェックを ON にしてプロトコルボタンをクリックします。**
  プロトコルダイアログで、設定は行わずにキャンセルした場合に、共有設定の情報が反映されてしまいます。
- **既に定義済みの情報を読み込んだ場合、［下へ］のボタンをクリックして情報を移動した時に「内容設定 : 適用ボタンを押し設定を終了させてください」というメッセージが表示されます。**

CIFS 設定

CIFS は Windows ファミリーで使用されるファイル共有プロトコルで、Windows98 同士のファイル共有や、Windows 2000/NT サーバと Windows98 クライアント間でのファイル共有に使われるプロトコルです。

設定パラメータ	内容
コメント	**共有フォルダの説明を記述することができます。**
ユーザー制限	**ユーザー数を制限することができます。**
キャッシュ設定	**共有ドキュメントの管理上のキャッシュ設定を行えます。**
アクセス権許可／拒否	**ユーザーのアクセス権をコントロールできます。**
ユーザー	**共有アクセスを与えるユーザーを登録できます。**

※［OK］をクリックすると、設定が Excel シートに反映されます。

⚠注意

CIFS のユーザーアクセス権は、登録した、すべてのユーザーにプルダウンで表示されるアクセス権が設定されます。複数のタイプのアクセス権を付与する場合は別途作業が必要となります。

NFS 設定

NFS は UNIX/Linux で一般的なファイル共有プロトコルです。

設定パラメータ	内容
ユーザー	許可を与える UNIX/Linux クライアント名もしくは IP アドレスを指定します。
アクセスタイプ	アクセス権限をコントロールできます。 • アクセス不可 指定されたクライアントはアクセスできません。 • 読み取り専用 ファイルを閲覧できますが、ファイルをアップロードしたり、変更することはできません。 • 変更／読み取り ファイルの閲覧および、新規作成、変更を行うことができます。 • Root ルート権限を設定することができます。
EUC-JP を有効にする	EUC-JP エンコードを有効にするか、しないかを選択することができます。

※［OK］をクリックすると、設定が Excel シートに反映されます。

⚠注意

アクセス権は、デフォルトではアクセス不可に設定されています。
マシンもしくは IP アドレスを指定し、アクセスタイプを設定してから［追加］をクリックすることでアクセス権が設定されます。
アクセス権を変更する場合は、一度［削除］をクリックし、再度新規登録を行う必要があります。

HTTP 設定

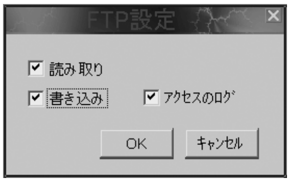
HTTP 共有は Web ブラウザを通じて、書類を閲覧・実行することができます。

設定パラメータ	内容
アクセスタイプ	アクセス権限をコントロールできます。 • 読み取り 書類を閲覧できますが、変更はできません。 • 書き込み 書類の閲覧・変更が可能です。

※［OK］をクリックすると、設定が Excel シートに反映されます。

FTP 設定

FTP（File Transfer Protocol）を通じてファイルをダウンロードおよびアップロードすることができます。FTP 設定では、この設定を行います。



設定パラメータ	内容
アクセスタイプ	アクセス権限をコントロールできます。 • 読み取り 書類を閲覧できますが、変更はできません。 • 書き込み 書類の閲覧・変更が可能です。
アクセスのログ	FTP のアクセスをログ記録として残すか、残さないかの設定です。

※［OK］をクリックすると、設定が Excel シートに反映されます。

(4) 設定が終了したら、共有設定画面で［OK］をクリックします。

タスク選択画面に戻ります。

7 設定を保存する

(1) **タスク選択画面で［戻る］をクリックします。**

メイン画面に戻ります。

(2) **［保存］または［終了］をクリックし、ファイルの保存先を指定します。**

環境情報ファイルが保存されます。

> ⚠注意
> **本機能には、以下の制限事項があります。**
> **「報告書の出力」にチェックを付けても報告書は出力されません。**

8 環境情報ファイルを適応する

環境設定ファイルは、PRIMERGY FileServer 設定 Web 画面より適応します。
Web 管理画面への接続に関しては、「5.2 接続方法」を参照してください。

(1) **プライマリナビゲーションバーから、［メンテナンス］をクリックします。**

(2) **セカンダリナビゲーションバーから、［バックアップ／リストア］をクリックします。**

(3) **メニュー選択画面から、［リストア］を選択します。**

(4) **あらかじめバックアップされている XML ファイルを、［参照］をクリックして指定します。**

ー テキストボックスにファイルパスを直接入力して指定する事もできます。

(5) **［確認］ボタンをクリックします。**

ファイルがアップロードされ、上記で既定されたパラメータが適応されます。

(6) **［OK］ボタンをクリックします。**

4.3 オンラインサーバ設定について

オンラインでサーバ設定をカスタマイズするには、管理画面を使用します。このブラウザから操作を行うための画面を、「WebUI」と呼びます。

PRIMERGY FileServer の運用・管理に必要な機能を Web ブラウザを通じて提供します。WebUI を使うことで、あらかじめプレインストールされたパラメータコンフィグレーションをカスタマイズすることができます。

「4.1 セットアップの概要」をよくお読みの上設定を行ってください。

WebUI の特長

運用後のサーバ設定を Web ブラウザを通じて行うことで、専門性を減少させ、運用環境に必要な詳細設定を確実に行うことができます。

4.3.1 WebUI でのサーバ運用に必要なセットアップ手順

PRIMERGY FileServerの接続を行い、電源投入後約10分ほど待つ。

↓

Webブラウザを使用して
http://10.0.0.2:8099 または
http://<サーバ名>:8099 に接続する。

Netscape Navigatorでは一部設定できない機能があります。
設定にはInternet Explorerをお使いになることをおすすめします。
詳細については「第5章　PRIMERGY FileServerの運用・管理について」をご覧ください。

↓

表示された開始画面の開始メニューで以下の手順でサーバ設定を行う。

メニュー構成などについては、
「5.1 WebUI」をご覧ください。

↓

サーバステータスを確認し、必要があれば問題を解消する。
例:以下の問題を解消するには
日付と時刻
→「5.5.6日付と時刻の設定を行う」
通知電子メール
→「5.5.7通知電子メールの設定を行う」

メニュー構成などについては、
「5.5.1サーバ状態を確認し、状態を回復する」をご覧ください。

↓

管理者アカウントを設定する。

安全なアクセスを保証するため管理者パスワードの設定を行ってください。

↓

サーバアプライアンス名を設定する。

管理しやすい名前に設定します。
→「5.5.2PRIMERGY FileServer名を設定する」

↓

ネットワーク環境設定を行う。

ネットワーク環境に合わせ変更します。
→「第6章 ネットワーク環境設定」

↓

必要に応じて、各種設定を行う。（ユーザー設定・グループ設定・共有設定等）

詳細に関しては、「第 5 章　PRIMERGY FileServer の運用・管理について」をご覧ください。

第 5 章　PRIMERGY FileServer の運用・管理について

この章では、本サーバの運用・管理の方法について説明します。

Contents

5.1 WebUI 76
5.2 **接続方法** 77
5.3 WebUI **画面構成** 79
5.4 MMC **によるサーバ管理** 84
5.5 **運用までの詳細手順** 85

5.1 WebUI

第 4 章で既に述べましたが、PRIMERGY FileServer は、Web ブラウザを通じて、サーバの運用・管理を行うことができます。
この Web ブラウザから操作を行うための画面を、「WebUI」と呼びます。
以下では、WebUI の構成と用語について説明します。

5.2　接続方法

WebUI に接続する方法について説明します。

1 **Web ブラウザを起動します。**

サポートする Web ブラウザは以下の通りです。

- Microsoft® Internet Explorer 5.0 以上
- Netscape 6.01 以上

注意

Netscape 社のブラウザでは、WebUI の提供するターミナルサービスを使った以下の機能を動作させることができません。

機能	内容
ネットワーク - ネットワークアダプタ	**「ネットワークとダイアルアップ接続」を表示し、NIC の有効／無効設定を行います。**
ディスク - ディスクとボリューム	**Disk Management を起動し、ディスク管理・設定を行います。**
ディスク - Adaptec Storage Manager	**本サーバで採用している RAID 管理ツールを起動し、RAID 設定に関する一連の操作を行います。**
メンテナンス - ターミナルサービス	**ターミナルサービスを起動し、サーバの詳細設定を行うことができます。**

すべての管理機能をご利用になる場合は、Microsoft® Internet Explorer5.0 以上をご利用することをおすすめします。

注意

ただし、Microsoft® Internet Explorer5.5 では、以下のような制限があります。

- **Windows 98/ME + IE5.5 の環境において、WebUI の「メンテナンス」でログのダウンロードを実施する際に、「evt」形式以外のファイル形式を選択すると、ダウンロードされずに内容が表示されます。**
- **IE5.5 + IE の SP1 の環境において、WebUI の「メンテナンス」でログのダウンロードを実施する際に、「evt」形式以外のファイル形式を選択すると、指定していない HTML の内容がダウンロードされます。**
  WebUI の「メンテナンス」でバックアップを行った場合も同じ現象となります。

2 ナビゲーションバーで以下の URL を指定します。

URL には、下記のように FQDN（Full Query Domain Name: ドメイン名を含めたサーバ名）かつポート 8099 を指定します。

http:// ＜ PRIMERGY FileServer 名＞ . ＜サフィックス＞：8099

または、

http:// ＜ PRIMERGY FileServer の IP アドレス＞：8099

なお、IP アドレスを URL に利用する場合、プロキシサーバの設定によっては、うまく表示できない場合があります。
その場合は以下の方法で回避してください。（Internet Explorer の設定）

(1) 「ツール」メニューの「インターネットオプション」をクリックします。

インターネットオプションダイアログが表示されます。

(2) 「接続」タブをクリックし、「LAN の設定」をクリックします。

(3) システム管理者から提供された設定ファイルを使用している場合、「自動設定のスクリプトを使用する」のチェックをはずします。

(4) 「プロキシサーバを使用する」にチェックを付けて、プロキシサーバとポートを指定し、「ローカルアドレスにはプロキシサーバを使用しない」にチェックを付けます。

(5) 「詳細」をクリックし、「例外」に、PRIMERGY FileServer の IP アドレスを追加します。

「OK」をクリックし、設定が反映されれば接続可能となりますので、再読み込みを行ってください。

⚠注意

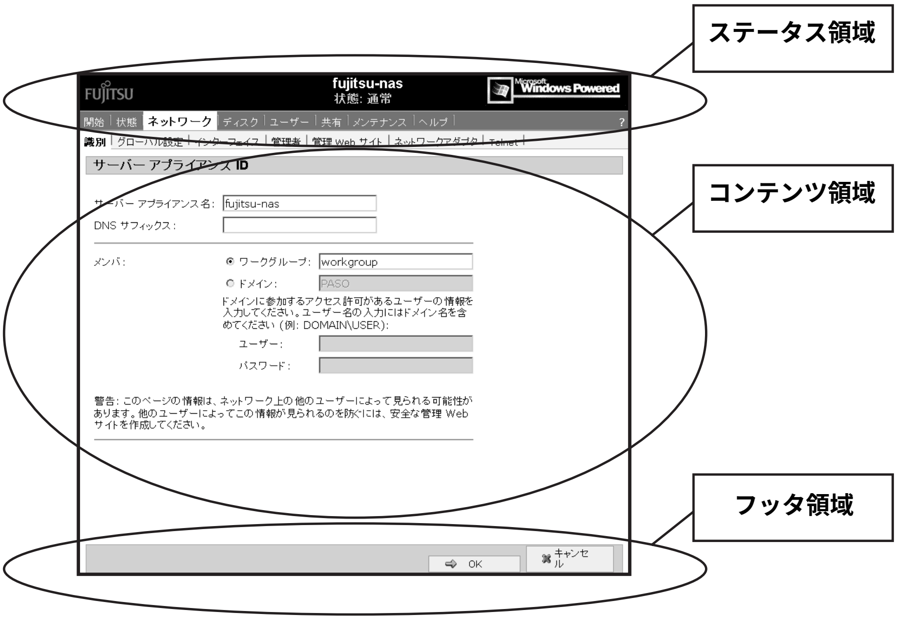
DHCP を取得しない出荷時構成においては、「Windows Explorer」及び「Internet Explorer」において、IP アドレス指定でも発見できない場合があります。
その場合は一度、本サーバを終了しローカルなハブ一台とクライアント一台を用意し、設定を行ってください。
クライアントの IP アドレスは以下の様に指定してください。

IP アドレス：10.0.0.XX
サブネットマスク：255.255.255.128

5.3　WebUI 画面構成

WebUI の画面構成について説明します。

WebUI の画面は大きく 3 つの部位、ステータス領域・コンテンツ領域・フッタ領域、からなります。



5.3.1 ステータス領域

ステータス領域は、上部、下部の二つの領域に分かれます。

■ 上部

富士通ロゴ領域
富士通のページにリンクしています。

Microsoft Windows Powered **のロゴ**
マイクロソフトのページにリンクしています。

本サーバのホスト名と状態
サーバ名とサーバ状態（ステータス）が表示されます。
ステータスには以下の 4 種類があります。() 内は表示文字色です。
通常（緑）、情報（グレー）、警告（黄）、重大（赤）

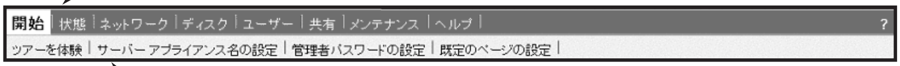
[状態 : ＜情報＞] をクリックすると、本サーバの状態に関する詳細情報が表示されます。

■ 下部（ナビゲーションバー）

下部には、ナビゲーション バーが表示されます。

下の図は、本サーバの標準的な WebUI のプライマリナビゲーションバー（青）とセカンダリナビゲーションバー（白）です。

プライマリナビゲーションバー（青）
PRIMERGY FileServer の管理・運用の大項目が表示されます。
各プライマリナビゲーション項目をクリックすると、それに属するセカンダリナビゲーション項目が表示されます。



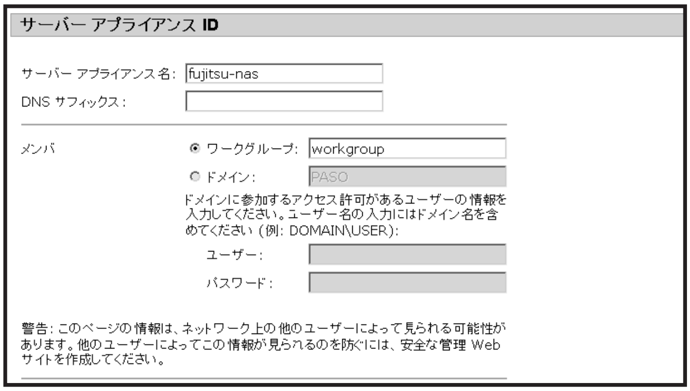
セカンダリナビゲーションバー（白）
セカンダリナビゲーションバーには、プライマリナビゲーション項目に対応するサブメニュー一覧が表示されます。

5.3.2 コンテンツ領域

ナビゲーションバーの下にあるコンテンツ領域には、ページ情報が表示されます。WebUI のコンテンツ領域には、そのページで実行可能な管理動作が示されます。選択したタスクを実行するために使用するツールについての説明が表示される場合もあります。

■ 入力欄があるとき

画面例



選択したページのタスクを完成させるため、フィールドに必要なデータを入力します。

■ オブジェクトとタスクを指定するとき

画面例（オブジェクト／タスク セレクタ）

ユーザーによる管理や構成が可能なオブジェクト、それらのオブジェクトの説明、および実行可能なタスクが表示されます。左端の列には、オブジェクトを選択するためのオプション ボタンが表示されますので、管理または構成するオブジェクトを左側から選択し、右側から実行するタスクを選択します。

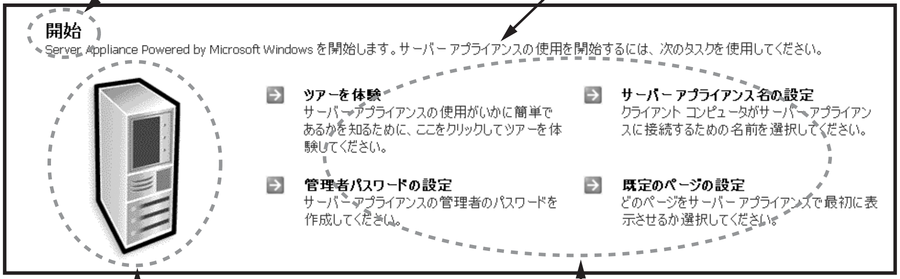
複数のオブジェクトが選択された場合は、左端の列にはオプション ボタンの代わりにチェック ボックスが表示されます。右端の列には、実行可能なタスクが一覧表示されます。

■ ツールについての説明が表示されるとき

画面例

プライマリナビゲーション項目
プライマリナビゲーションのタイトルです。

プライマリナビゲーション項目の説明
プライマリナビゲーション項目が実現している、運用・管理機能が解説されています。



プライマリナビゲーション項目アイコン
プライマリナビゲーション項目の機能がシンボリックに表示されます。

セカンダリナビゲーション項目一覧
プライマリナビゲーション項目が含む、下位のセカンダリナビゲーション機能一覧が表示されます。

5.3.3 WebUI 内を移動する

WebUI 内を移動するには、次のように行います。

1 **プライマリナビゲーションバーで、実行する一般的なタスクの種類をクリックします。**

2 **セカンダリナビゲーションバー、またはコンテンツ領域のタスク一覧で、実行する具体的なタスクの種類をクリックします。**

3 **続いて表示されるページのコンテンツ領域で、情報を指定します。**

4 **各タスクの処理が終了したら、フッタ領域にある［OK］をクリックして変更を確定します。**

変更前の設定を維持するには［キャンセル］をクリックします。
変更またはキャンセルを実行すると、前のページが表示されます。

ポイント

プロパティ ページにいるときにナビゲーション バーの別の項目を選択すると、「［OK］をクリックすると、変更が無効となります。」というメッセージと共にポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、次に選択したページへ移動する前に、変更を確定するか、あるいはキャンセルするかを選択することができます。

5.4　MMC によるサーバ管理

PRIMERGY FileServer は、Windows 2000 をベースにした Windows Powered OS によってインテグレートされています。このため、Windows 2000 で標準的に利用可能な、サーバ管理ソフト MMC（Microsoft Management Console）という簡易管理コンソールを利用することが可能です。

MMC による管理方法は、PRIMERGY FileServer の Administrator グループに属しているユーザー（ドメインの Administrators グループはデフォルトで参加しています）のみ、閲覧・設定が可能です。
ドメインのアドミニストレータ権限がない場合、ローカルのアドミニストレータ権限を取得していても、すべての機能を管理することはできません。
MMC の機能詳細については Windows 2000 のヘルプなどをご覧ください。

他のマシンから PRIMERGY FileServer を管理するには、次の手順で行います。
ただし、上記のようにグループポリシーや、ユーザーレベルによって操作できる管理項目は異なります。

1 **デスクトップ上のマイコンピュータを右クリックし、［管理］をクリックします。**
2 **コンピュータの管理が起動したら、［コンピュータの管理（ローカル）］を選択し、右クリックします。**
3 **ポップアップメニューから［別のコンピュータへ接続］をクリックします。**
4 **場所を指定するか、サーバ名を直接指定し、接続を試みます。**
   接続が成功すると、コンピュータの管理のメニューが［コンピュータの管理（サーバ名）］になり、遠隔管理することができます。

5.5　運用までの詳細手順

ここでは、サーバの運用までに必要となる WebUI の基本設定について説明します。
これ以外の WebUI の機能は、第 6 章以降をご覧ください。

5.5.1　サーバ状態を確認し、状態を回復する

サーバの運用を行っている上では、様々な要因によりサーバ状態が変化する場合があります。
ここでは、サーバ状態が変化した場合にどうするのか、オペレーションの概略を示します。

サーバ状態には以下の 4 種類があります。

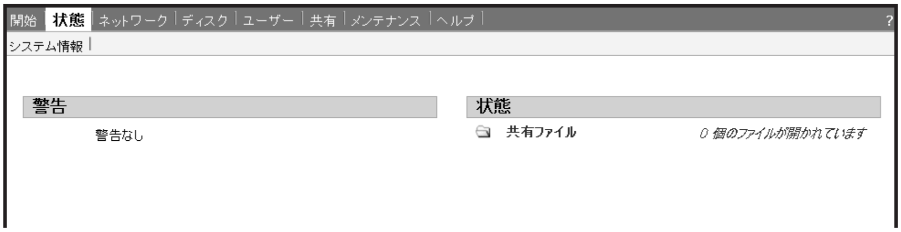
項目	説明
通常	［警告］ページには、メッセージが存在しないことが表示されます。
情報	［警告］ページには、文字を含むアイコンと共に、システムで発生した問題がハイパーリンクとして一覧表示されます。
警告	［警告］ページには、感嘆符を黄色い三角形で囲んだアイコンと共に、システムで発生したエラーがハイパーリンクとして一覧表示されます。
重大	［警告］ページには、白の x を赤い円で囲んだアイコンと共に、システムで発生したエラーがハイパーリンクとして一覧表示されます。

■ サーバ状態の詳細を確認するには

サーバ状態の詳細を確認するには、次のように行います。

1 **ステータス領域の［状態 :< 情報 >］をクリックします。**

またはプライマリナビゲーションバーから、［状態］をクリックします。
本サーバの状態に関する詳細情報が表示されます。



ポイント

運用開始後に状態確認がメインになる場合は、プライマリナビゲーションバーの［開始］を選択し、［既定ページの設定］を選択することで、PRIMERGY FileServer の初期画面を設定することができます。
本機能については、「5.5.4 既定ページを変更する」を参照してください。

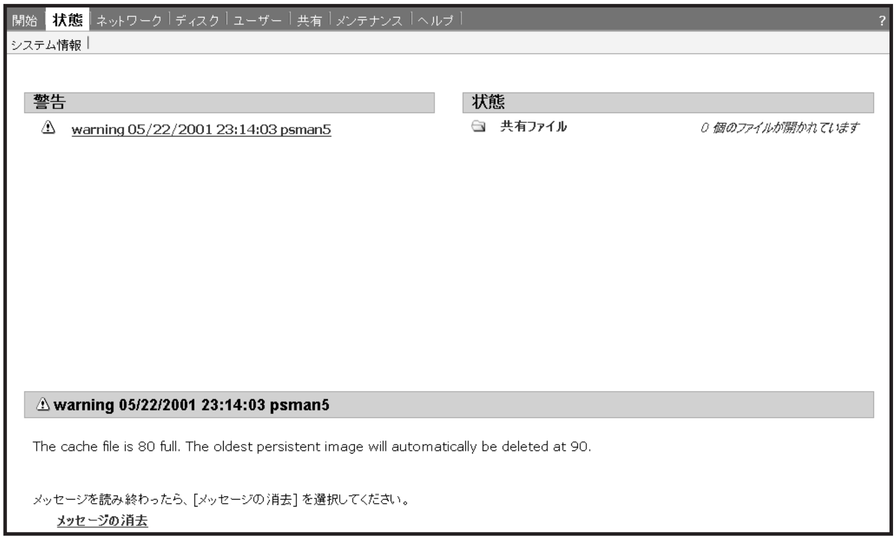
■ サーバ状態を回復するには

サーバ状態が情報・警告・重大の場合、コンテンツ領域中央部分に、詳細情報が表示されます。
詳細情報をよく読み、レベルに応じた対処をしてください。

■ 警告を消去するには

警告を消去するには、次のように行います。

1 **プライマリナビゲーションバーで、［状態］をクリックします。**



2 **消去する警告を選択します。**

3 **警告の状況に対処する動作を選択するか、または［メッセージの消去］をクリックして警告メッセージを消去します。**
メッセージを消去しても本サーバの構成は変更されません。

導入時には、「日付と時刻の設定」および「通知電子メール」の警告情報が表示されている場合があります。その場合は、以下の節をよくお読みの上、設定を行ってください。

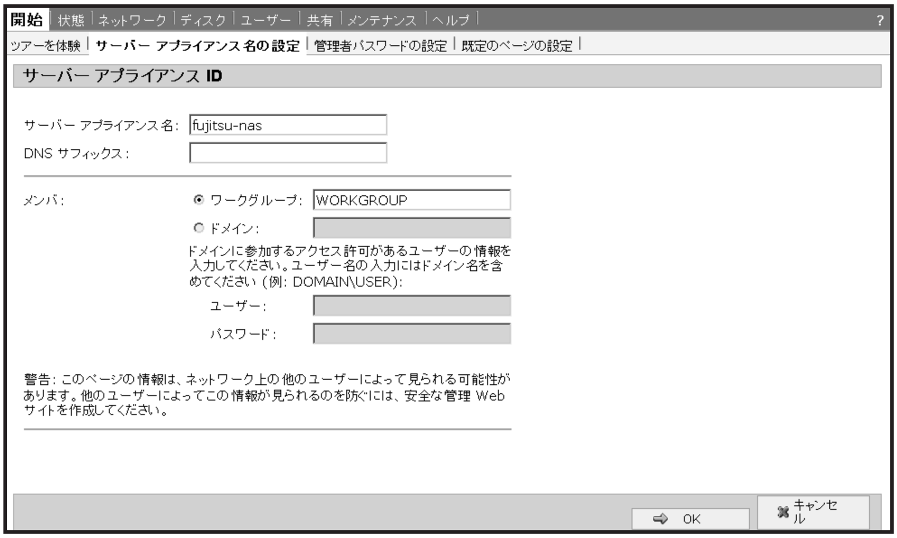
5.5.2 PRIMERGY FileServer 名を設定する

サーバ名を変更するには、次のように行います。

1 プライマリナビゲーションバーで、［開始］をクリックします。

2 セカンダリナビゲーションバーで、［サーバアプライアンス名の設定］をクリックします。

次の画面が表示されます。



3 お使いの環境に合わせて、設定を変更します。

設定項目	説明
サーバ アプライアンス名	本 PRIMERGY FileServer 名 サーバ名は、ネットワークにおけるサーバの名前です。サーバ名は一意であること、および一定の条件を満たしていることが必要です。サーバ名には、別のコンピュータまたは Microsoft Windows ドメインと同じ名前を指定できません。 名前は、15 文字以内で指定することをおすすめします。サーバ 名では使用文字を限定する必要があります。名前の設定を適切に行わない場合、ネットワーク上でコンピュータを検出できなくなる場合があります。 詳細に関しては Windows 2000 のヘルプ（＊ 1）をご覧ください。

設定項目	説明
DNS サフィックス	DNS （ドメイン ネーム システム）サフィックスには、主に次の 2 つの目的があります。 • サーバホスト名に付加することで、DNS サフィックスは完全修飾された本サーバ名を構成します。 • DNS サフィックスは IP アドレスを解決するために使用されます。本サーバが、Windows NT 4.0 ドメイン、Microsoft Active Directory、またはワークグループのメンバである場合、DNS サフィックスはそのドメイン環境に依存します。 DNS サフィックスに使用できる文字数は、ハイフンとピリオドも含めて最大 155 文字です。
ドメイン	本サーバ は、ワークグループ、Active Directory 環境、または Windows NT 4.0 ドメインに組み込むことが可能です。 Microsoft Windows NT 4.0 および Microsoft Active Directory 環境におけるドメインは、ネットワーク管理者によって定義された共通のディレクトリ データベースを共有するコンピュータの集合です。 ドメインに参加させる場合は、あらかじめドメインコントローラにコンピュータアカウントを設定する必要があります。詳細に関しては Windows 2000 のヘルプ（＊ 1）をご覧ください。 ドメイン参加にはコンピュータをドメインに参加させる権限を持つドメインユーザーアカウントとパスワードを入力する必要があります。
ワークグループ	ワークグループはコンピュータを単純にグループ化したもので、ユーザーがそのグループ内でプリンタや共有フォルダなどを探しやすくする目的で使用されます。本サーバは、ワークグループ、Active Directory 環境、または Windows NT 4.0 ドメインのメンバにすることができます。 Microsoft Windows 2000 のワークグループは、ドメインで提供されているユーザー アカウントの一元管理および認証をサポートしません。

＊ 1 Windows 2000 のヘルプを参照するには、WebUI で［メンテナンス］－［ターミナルサービス］を選択して、PRIMERGY FileServer にログオンし、［スタート］－［ヘルプ］をクリックします。

4 設定が終わったら［OK］をクリックし、設定を保存します。

⚠注意

ServerView を使って監視を行っている場合、管理コンソールに登録されているサーバ名が変更された場合正しく監視操作を行えません。サーバ名を新たに変更した場合は、コンピュータ情報の変更を行う必要があります。
詳しくは、「13.4.3 コンピュータ情報変更登録」をご覧ください。

5.5.3　管理者アカウントを設定する

PRIMERGY FileServer では、出荷時には、管理者情報が次のように設定されています。

ユーザー名：Administrator
パスワード：（なし）

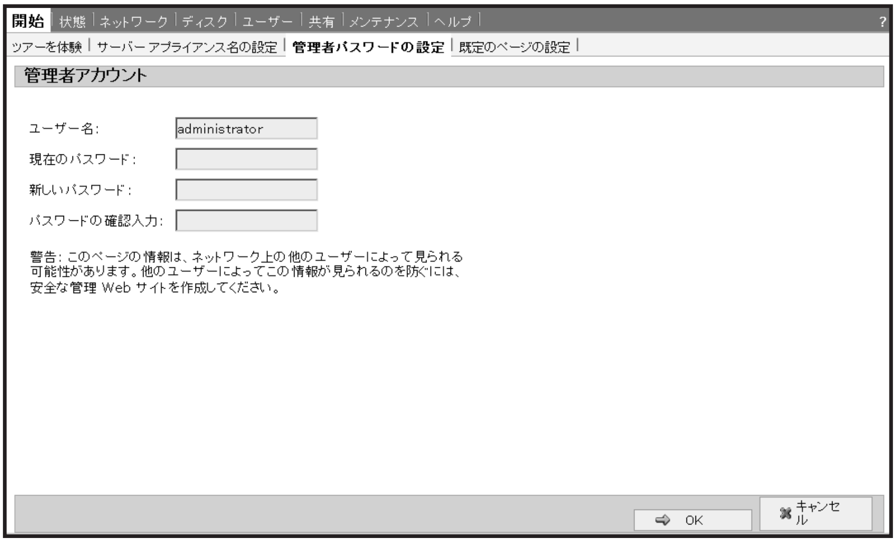
サーバ管理者を決定し、本設定を必ず変更してください。

■ 管理者パスワードを変更するには

1 **管理者として本サーバにログオンします。**

2 **プライマリ ナビゲーション バーで、[開始] をクリックします。**

3 **セカンダリ ナビゲーション バーで、[管理者パスワードの設定] をクリックします。**
次の画面が表示されます。



4 **[現在のパスワード] ボックスに現在の管理者パスワードを入力します。**

5 **[新しいパスワード] ボックスに新しい管理者パスワードを入力します。**
※ 新しい管理者パスワードは、本サーバが属しているドメインのパスワード作成ルールに準拠していなければなりません。

6 **[パスワードの確認入力] ボックスに新しい管理者パスワードを再度入力します。**

7 **[OK] をクリックします。**

本サーバには既定アカウントのセットが含まれています。このうち、管理者アカウントだけに管理者特権が割り当てられています。

⚠注意

- **管理者がローカル管理者グループにドメイン アカウントを追加すると、そのドメイン ユーザーは本サーバにアクセスしてこれを管理することができます。ただし、[管理者パスワードの変更] ページで、管理者がそのドメイン アカウントのパスワードを変更することはできません。このページでは、ローカル管理者のアカウントのパスワードのみを変更できます。**
  管理者パスワードを変更する際、確認画面は表示されません。変更を送信した後にエラー メッセージが表示されなければ、パスワードは変更されたことになります。
- **本サーバ上ではなくドメイン コントローラ上に格納されているドメイン ユーザー アカウントを変更する目的で、本サーバ WebUI の範囲外にあるドメイン ユーザーとしてログオンした場合は、管理者パスワードを変更できません。この場合、管理者はローカル管理者グループのメンバであるユーザー アカウントに関連付けられ、このユーザー アカウントは、現在のユーザーによってログオン時に使用されます。このアカウントは administrator と呼ばれる既定の管理者アカウントとは異なります。**
  管理者のパスワードまたはアカウント名を変更しようとして「ドメイン アカウントのパスワードは変更できません。」または「このドメイン アカウントのアカウント名は変更できません。」というエラー メッセージが表示された場合は、ドメイン ユーザーとしてログオンしています。管理者パスワードを変更するには、本サーバの管理者としてログオンする必要があります。

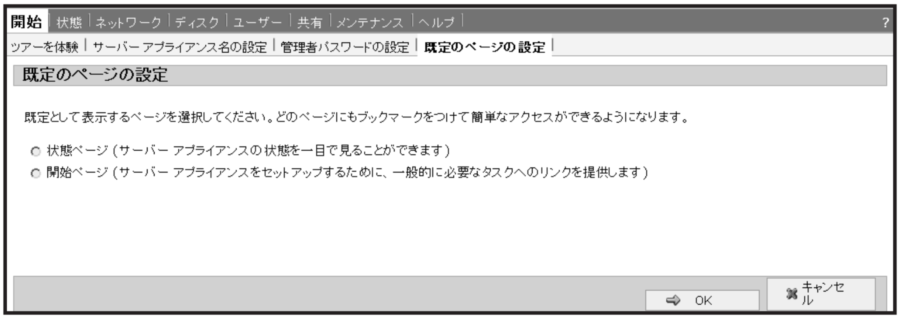
5.5.4　既定ページを変更する

既定ページは、PRIMERGY FileServer へアクセスするたびに表示されます。［開始］ページまたは［状態］ページを、本サーバの既定のページに設定することができます。サーバの状態管理を行うために、既定ページを状態ページに設定されることをおすすめします。

本サーバの既定のページを設定するには、次のように行います。

1　**プライマリ ナビゲーション バーで、［開始］をクリックします。**

2　**セカンダリナビゲーションバーで、［既定のページの設定］をクリックします。**
次の画面が表示されます。



3　**既定として設定するページを選択します。**

4　**［OK］をクリックします。**

注意

■ブラウザのホームの設定と既定ページの違い
既定ページは、以下のいずれかの URL を使って、WebUI へ初めて接続した時に表示される画面を定義します。

http:// < PRIMERGY FileServer 名> . <サフィックス> : 8099

または、

http:// < PRIMERGY FileServer の IP アドレス> : 8099

このため、以下の様な設定を行うと、動作が異なるのでご注意ください。

1　**上の URL 設定を使って PRIMERGY FileServer に接続する。**

2　**ブラウザのホームページ設定を行う。**
例）［開始］ページをホームページ登録

3　**既定ページの設定を行う。**
例）［開始］→［状態］へ変更

上記の操作を行った場合、既定ページに設定された［状態］Web ページに接続されます。

5.5.5 管理者ポートを変更する

管理者用のポートは、出荷時には 8099 に設定しています。よりセキュアな設定にしたい場合に、本機能を使用します。
この機能を使用すると、PRIMERGY FileServer 上の管理 Web サイトへアクセスする際に使用する IP アドレスとポートを変更できます。

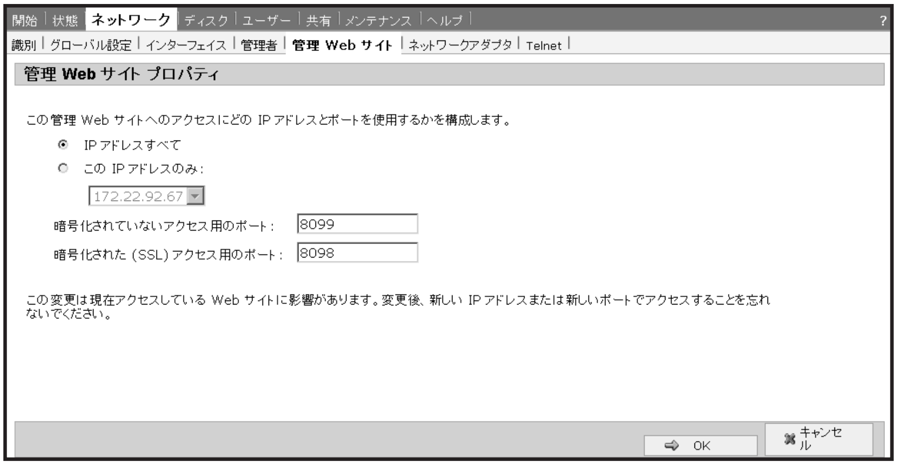
一般に、PRIMERGY FileServer が応答またはリッスンする既定の IP アドレスが変更されるのは、本サーバが、ある特定のサブネットまたは別の管理ネットワーク上で管理されている場合です。
暗号化されたアクセスおよび暗号化されていないアクセスの両方に使用される既定のリッスン ポートは、既存のネットワーク ソフトウェアの構成に合わせて変更できます。たとえば、ある特定のポート番号上でトラフィックが許可されていない場合は変更が必要です。

管理 Web サイトのプロパティを変更するには、次のように行います。

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ネットワーク］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［管理 Web サイト］をクリックします。**

次の画面が表示されます。



3 **［管理 Web サイト プロパティ］ページで次の操作を行います。**

(1) **［IP アドレスすべて］または［この IP アドレスのみ］のどちらを使用するかを指定します。**

(2) **［この IP アドレスのみ］を使用する場合は、一覧から使用する IP アドレスを選択します。**

(3) **暗号化されていないアクセスに使用するポートを変更する場合は、［暗号化されていないアクセス用のポート］ボックスに新しいポート番号を入力します。**

(4) **暗号化アクセスに使用するポートを変更する場合は、［暗号化された（SSL）アクセス用のポート］ボックスに新しいポート番号を入力します。**

4 **［OK］をクリックします。**

5.5.6 日付と時刻の設定を行う

日付と時刻の設定を変更するには、次のように行います。

1 **プライマリナビゲーションバーで、［メンテナンス］をクリックします。**

2 **セカンダリナビゲーションバーで、［日付 / 時刻］をクリックします。**

3 **日付と時刻を入力します。**

4 **一覧からタイムゾーンを選択します。**

5 **［OK］をクリックします。**

設定が保存されます。

「4.2 オフラインサーバ設定について」でタイムゾーンを設定した場合でも Web 上では、警告が表示されます。問題ないことを確認し［OK］をクリックしてください。

5.5.7　通知電子メールの設定を行う

警告が発生した場合に自動電子メールで通知するように設定できます。

発生した警告をすべて通知するか、あるいは情報、警告、重大など特定の種類の警告のみ通知するかを選択できます。

また、警告情報を複数のサーバ管理者に対しても、通知できます。

電子メールは、サーバにプレインストールされている SMTP サービスを使用して送信されます。通常のインターネット環境では、SMTP ゲートウェイを構成する必要はありません。

ただし、Microsoft® Exchange Server または Lotus Notes に電子メールを送信する場合は、特定の SMTP ゲートウェイの名前を指定する必要があります。Web ユーザー インターフェイス （UI）の SMTP サーバ フィールドに、SMTP ゲートウェイ サーバ名または IP アドレスを入力してください。SMTP ゲートウェイのサーバ名については、Microsoft Exchange の管理者に問い合わせてください。

通知電子メール機能を設定するには、次のように行います。

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［メンテナンス］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［通知電子メール］を選択します。**

3 **［通知電子メールを有効にする］をクリックし、通知電子メールを送信する環境について適切なチェック ボックスを選択します。**

4 **［宛先］ボックスに、システム管理者の電子メール アドレスを入力します。**

※ 複数のアドレスに通知電子メールを送信するには、［宛先］ボックスにカンマで区切ってアドレスを入力します。

5 **［使用する** SMTP **サーバ］ボックスに、**SMTP **ゲートウェイ名または** SMTP **サーバの** IP **アドレスを入力します。**

6 ［テスト］をクリックして、設定に問題がないか試します。

テスト用の電子メールが送信されます。

ポイント

- SMTP サービスがコンピュータにインストールされていないか、ネットワーク ケーブルが接続されていない場合は、「テスト用の電子メールを送信できません。」というエラーメッセージが表示されます。
- WebUI に「テスト用電子メールは送信されました。管理者の受信トレイを調べてください。」というメッセージが表示されているのにテスト用電子メールがまったく受信されていない場合、エラーの原因はおそらく SMTP サーバにあります。このエラーを解決するには、SMTP サーバ名を設定し直してください。
- 「4.2 オフラインサーバ設定について」を行った場合でも、警告表示はされます。かならずテストメールが送信されることを確認してください。

7 最終的な設定に問題がなければ、［OK］をクリックします。

第 6 章　ネットワーク環境設定

この章では、PRIMERGY FileServer のネットワーク環境設定について説明します。

Contents

6.1 **ネットワークの配置** 98
6.2 **ネットワーク設定の流れ** 99
6.3 IP **アドレス設定を変更する** 100
6.4 NIC **の有効／無効の設定を行う** 104

6.1 ネットワークの配置

PRIMERGY FileServer はネットワークを経由したストレージ管理を目的としたアプライアンスサーバです。

このため、複数枚の LAN カード（NIC：ネットワーク識別カード）を増設できるようになっています。

お客様の環境において、ネットワーク性能を最大限に引き出すためには、ネットワークインフラストラクチャーを考えて配置／設定する必要があります。

以下に、LAN カードを複数枚搭載した場合の代表的なパターンと配置例を記述します。

6.1.1 設置個所のネットワークセグメントが二つ以上に分かれている

各セグメントのルータに各 LAN から出るケーブルを挿入してください。

ただし、スイッチングハブをご使用の場合は同一ルータに接続しても問題ありません。

6.1.2 ネットワークセグメント数が NIC 数より多い

セグメント内のアクセス頻度が多い場所を検討し、LAN ケーブルを配置してください。

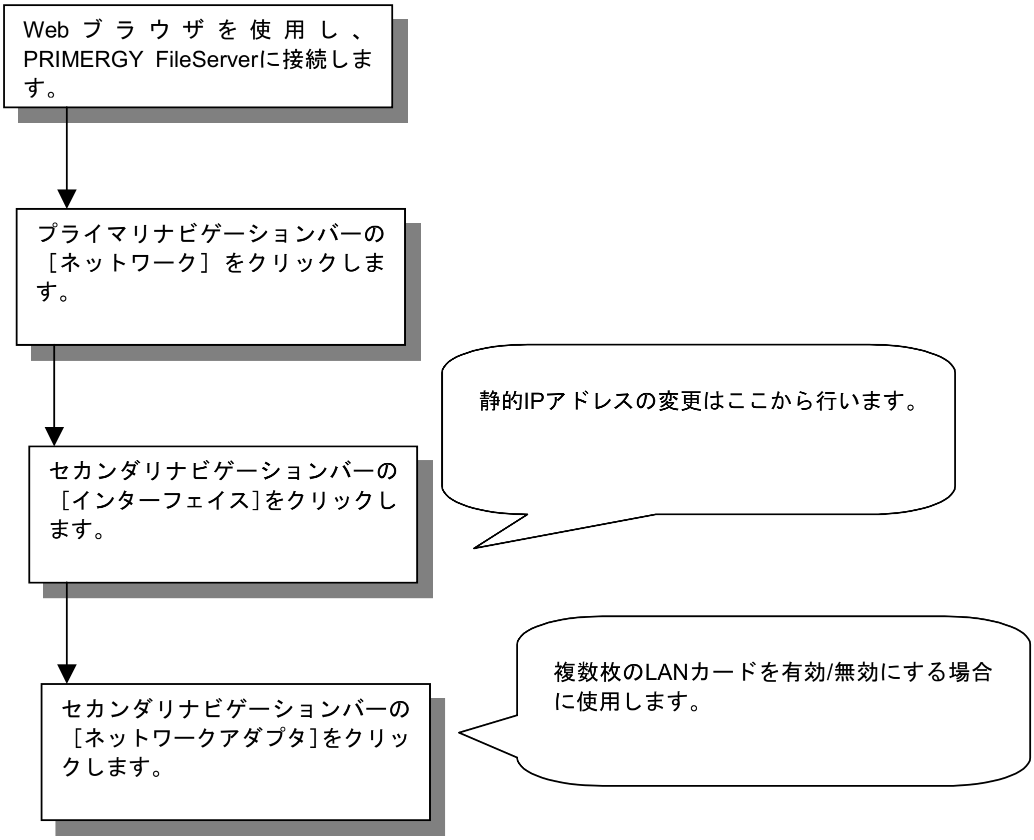
6.1.3 設置個所はセグメント分割されていない

セグメント分割されていない場合、同一の HUB にケーブルを接続した場合、ネットワーク経由で名前解決を行うことができなくなるので、同一セグメントへのケーブル挿入はお控えください。

ただし、お使いの HUB がスイッチングハブの場合は同一 HUB へ接続しても問題ありません。

6.2 ネットワーク設定の流れ

WebUI を使用したネットワーク設定は以下の流れに沿って行います。



6.3　IP アドレス設定を変更する

ネットワーク アダプタは、物理的なインターフェイス、つまりコネクタとして、コンピュータがネットワークにアクセスできるようにするハードウェアです。ネットワーク アダプタは、アダプタ カード、NIC（ネットワーク インターフェイス カード）、または単にカードと呼ばれる場合があります。
本サーバの WebUI の［インターフェイス］ページでは、次のタスクを実行できます。

- 接続の名前を変更する。
- IP（Internet Protocol）アドレス、ゲートウェイ アドレス、サブネット マスク、およびメトリックを設定または変更する。
- 本サーバにおける DNS 名の解決方法を設定または変更する。
- WINS（Windows インターネット ネーム サービス）クライアントの構成を設定または変更する。
- AppleTalk を構成する。（Apple Macintosh 用のファイル共有を行う場合）

■ ネットワーク アダプタを構成するには

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ネットワーク］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［インターフェイス］をクリックします。**
次の画面が表示されます。

3 **［説明］列で必要なアダプタを選択します。**

4 **［タスク］ボックスの一覧で、必要なタスクを選択します。**

5 **［タスク］ページで、選択したネットワーク アダプタの構成を左側のタブを使って表示します。**

6.3.1　接続名の変更

インターフェイスの接続名を変更するには、以下の手順で行います。

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ネットワーク］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［インターフェイス］をクリックします。**

3 **名前を変更するインターフェイスの接続を選択します。**

4 **［タスク］ボックスの一覧で、［名前の変更］をクリックします。**

5 **［接続名］ボックスに、インターフェイスの接続の新しい名前を入力します。**

6 **［OK］をクリックします。**

Windows Powered 環境では、認識された新しい NIC に対して Local Area Connection# という名前が自動的に配布されます。

6.3.2　IP アドレス構成を変更する

ネットワーク上の各コンピュータには、データの送受信のために一意の IP アドレスが必要です。
［IP アドレス構成］ページでは、IP アドレスを手動で構成することができます。

さらに、［IP アドレス構成］ページでは 1 つまたは複数のゲートウェイ アドレスを指定できます。

ゲートウェイ アドレスは、本サーバと同じネットワーク上にあるローカル IP ルーターのアドレスで、ローカル ネットワークの外部の宛先にトラフィックを転送するために使用されます。各フィールドの値は、0 ～ 255 の数値でなければなりません。

⚠注意

- **IP アドレスを変更すると、クライアントが本サーバとの接続を中断される可能性があります。再度接続するには、ユーザーが新しい IP アドレスを使用するか、または DNS サーバが更新されるまで待機する必要があります。**
- **ServerView を使って監視を行っている場合、管理コンソールに登録されている IP アドレスが変更された場合正しく監視操作を行えません。**
  IP アドレスを変更した場合は、コンピュータ情報変更登録を行う必要があります。詳しくは、「13.4.3 コンピュータ情報変更登録」をご覧ください。
  （ServerView に登録する IP アドレスは手動で設定する必要があります。）

■ ［全般］タブで IP アドレスを設定または変更するには

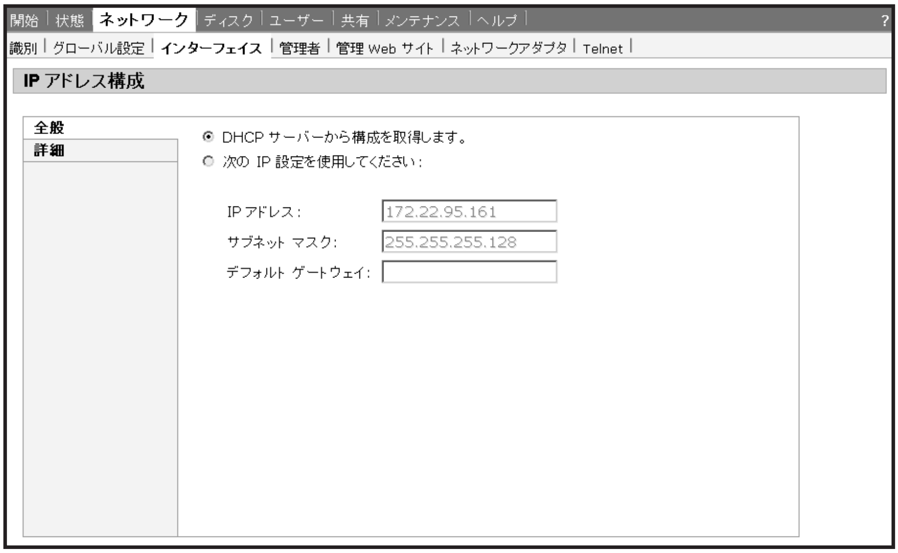
1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ネットワーク］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［インターフェイス］をクリックします。**

3 **変更するネットワーク接続を選択します。**

4 **［タスク］ボックスの一覧で、［IP］をクリックします。**

5 **［全般］タブをクリックします。**
次の画面が表示されます。



6 **「次の IP 設定を使用してください」を選択します。**

7 **IP アドレス、サブネット マスク、およびデフォルト ゲートウェイを、該当するボックスに入力し、［OK］をクリックします。**

■ ［詳細］タブで IP アドレスを設定または変更するには

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ネットワーク］をクリックします。**

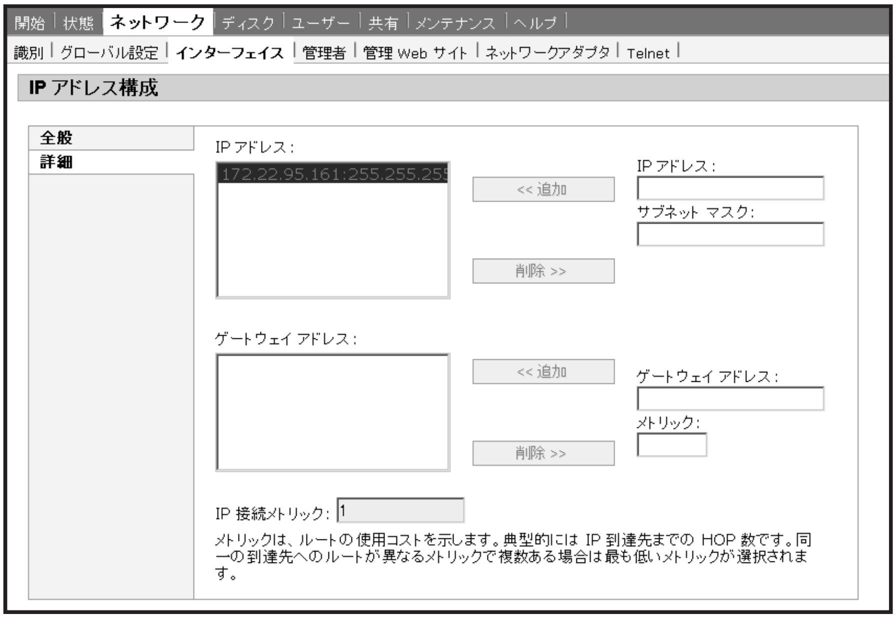
2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［インターフェイス］をクリックします。**

3 **変更するネットワーク接続を選択します。**

4 **［タスク］ボックスの一覧で、［IP］をクリックします。**

5 **［詳細］タブをクリックします。**

次の画面が表示されます。



6 **右側の［IP アドレス］ボックスに IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

7 **ローカル エリア接続を使用する場合は、［サブネット マスク］ボックスに適切なマスク情報を入力します。**

サブネット マスクは 32 ビットの数字で、0 ～ 255 の 4 つの値をピリオドで区切って表記されます。一般に、既定のサブネット マスクで使用される数値は 0 または 255 です（255.255.255.0 など）。ただし、ほかの数値を使用することもできます。これは、サブネットが単一の TCP/IP ネットワーク向けに構成されていることを示します。この 0 または 255 以外の値を伴った数字を IP アドレス番号と組み合わせて、コンピュータが置かれているネットワークを識別します。

8 **必要に応じて［IP 接続メトリック］を更新します。**

メトリックは、接続に関連付けられているルートの使用コストを表し、IP ルーティング テーブルにおけるこれらのルートの、［メトリック］列の値となります。宛先へのルートが複数存在する場合は、メトリック値の最も低いルートが使用されます。既定値は 1 です。

さらに IP アドレスを追加する場合は、手順 6 ～ 8 を繰り返します。

9 **［ゲートウェイ アドレス］および［メトリック］ボックスにデフォルト ゲートウェイとメトリックの両方の IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

10 **追加するデフォルト ゲートウェイそれぞれに対して、手順 9. を繰り返します。**

11 **この画面での構成の変更が完了したら、［OK］をクリックします。**

WINS および DNS の詳細な設定方法は、WebUI のヘルプ、または Windows 2000 のヘルプをご覧ください。

6.4 NIC の有効／無効の設定を行う

標準装備しているオンボード以外で、本サーバは複数枚の NIC をオプションとして増設できます。

お客様のネットワーク配置の設計・変更が充分できた段階で増設し、以下の要領で有効に設定してください。

6.4.1 NIC の有効／無効の変更を行う

1 **［ネットワーク］プライマリナビゲーションから［ネットワークアダプタ］をクリックします。**

2 **ターミナルサービスクライアント機能により OS のログオン画面が表示されます。**

3 **管理者名とパスワードを入力し、ログオンします。**

ネットワークとダイヤルアップ接続の画面が表示されます。

4 **アイコンがグレーになっているローカルエリア設定を選択します。**

5 **右クリックし、ポップアップメニューから有効／無効を選択します。**

6 **すべての NIC に対して操作が終わったら、スタートメニューからログオフを選択します。**

ネットワークインターフェイスの設定は「6.3 IP アドレス設定を変更する」をご覧ください。

第 7 章　ユーザー管理について

この章では、PRIMERGY FileServer を使ったユーザーの管理法について説明します。

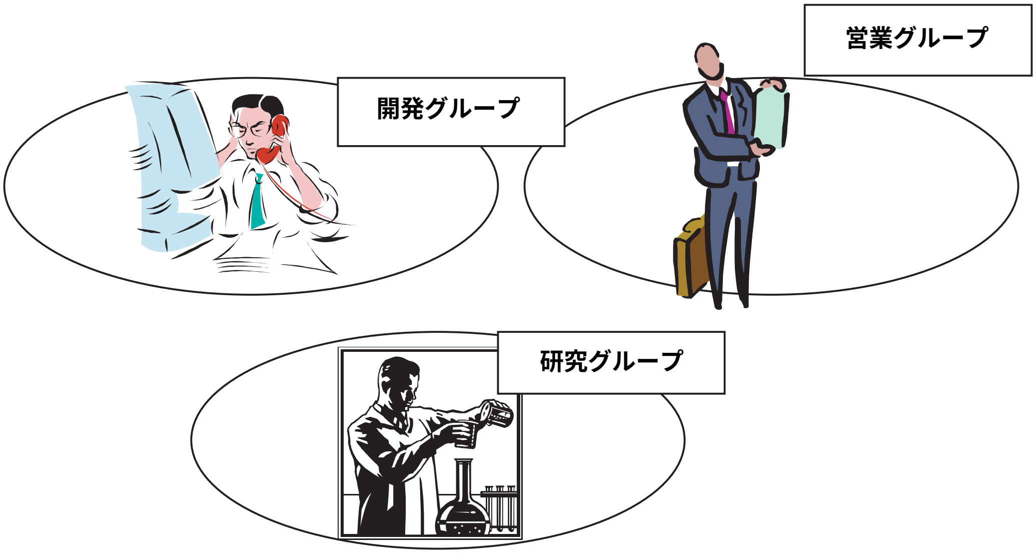
Contents

7.1 効果的な管理法 106
7.2 ユーザーの新規追加を行う 109
7.3 既存ユーザーを削除する 111
7.4 パスワードを設定する 112
7.5 ユーザープロパティを確認／変更する 112

7.1　効果的な管理法

ユーザーとグループを効果的に管理するには、ユーザーとグループを適切に構成する必要があります。

管理者は、通常ネットワーク上に、プロジェクトや、役割単位のいくつかのグループを作成し、ユーザーを適切なグループに割り当てます。ファイル システムと共有へのアクセス許可は、ユーザー レベルでなくグループ レベルに適用すると管理が効率的に行えます。ただし、グループ数が少ない場合には、各グループ内のすべてのユーザーに適切な許可を割り当てれば非常に効率的です。



これら、グループやユーザーの割り当ての方法には、組織の慣習的な固有の管理方法があります。既存の管理法の踏襲が望ましいですが、新たに管理する場合は次に示す一般的なガイドラインに従えば、よりシンプルで効率的な管理を実現できます。

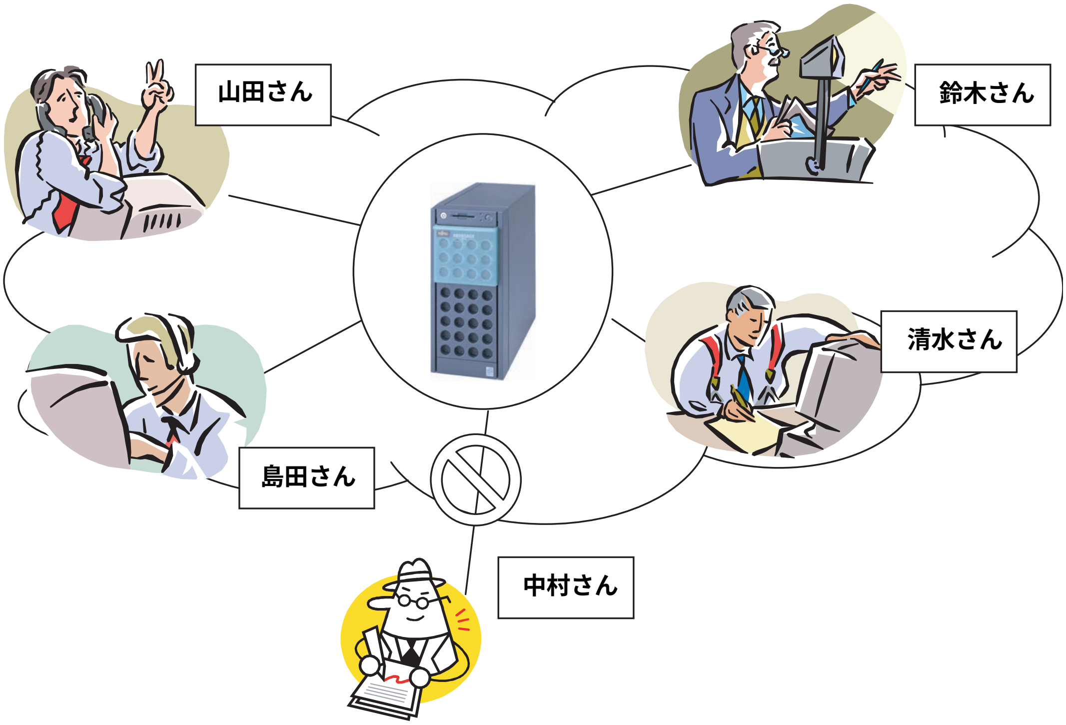
特に Windows 標準のファイル共有プロトコル CIFS では、ファイル共有に対し、ユーザーやグループによって異なるアクセスレベルを認証することができます。ユーザーとグループの一貫した管理を実現すれば、CIFS ファイル共有の管理も強化することができます。

7.1.1 ユーザー名の管理

ローカル ユーザーアカウントは PRIMERGY FileServer 上に存在し、これらのユーザーは、サーバリソースへアクセスすることができます。
また、ドメイン ユーザーやドメイン グループにもアクセスを許可するように PRIMERGY FileServer を構成できます。ドメイン ユーザーとドメイン グループは、Microsoft® Windows NT® 4.0 または Microsoft® Active Directory™ ドメインに存在します。ローカル ユーザー、ドメイン ユーザー、およびドメイン グループをローカル グループに追加できます。

Microsoft Windows® Powered セキュリティでは、ユーザーとグループが重要な役割を果たします。つまり、ユーザーやグループにアクセス許可を割り当てることによって、実行する操作を制限することができます。
ローカルサーバ管理者グループ（PRIMERGY FileServer の Administrator グループ）のメンバであるすべてのローカル ユーザーおよびドメイン ユーザーには、そのサーバに対する管理者特権が与えられます。
同様に、ローカル コンピュータの管理者グループとして指定されているグループのすべてのメンバには、そのコンピュータに対する管理者特権が与えられます。

これは以下の様に、説明することができます。



たとえば、上図のように、ある組織の中で、鈴木さん、山田さん、清水さん、島田さん で構成されたグループを作成し、PRIMERGY FileServer の管理者グループとして指定します。PRIMERGY FileServer 管理者グループに属する各メンバには、本サーバに対する管理者特権が与えられます。

このグループに属さない中村さんは、PRIMERGY FileServer の管理を行うことができません。

管理者特権の詳細については Windows のヘルプをご覧ください。

また、ユーザー名は、アカウントを使用するユーザーとの論理的な関係がわかるように設定します。

ユーザー名は次の要件を満たすように、適切な規則を確立する必要があります。

- **体系的である**
- **わかりやすく使いやすい**
- **実名に近い（ユーザーのアカウント名は実際の名前に対応する）**

これらを元に、以下の手順で WebUI を使ってユーザー管理を実現します。

［パスワード］ボックスと［パスワードの確認入力］ボックスには、最大 127 文字のパスワードを入力できます。

ただし、Windows 95 および Windows 98 では、14 文字までのパスワードしか使用できません。パスワードがそれよりも長いと、これらのコンピュータからネットワークにログオンできなくなります。Microsoft® Windows® 95 や Microsoft® Windows® 98 を使用しているコンピュータが接続されているネットワーク上で Microsoft® Windows® 2000 を使用している場合は、14 文字以内のパスワードを使用してください。

管理者グループに新しく追加されたユーザーだけが管理タスクを実行できます。

7.2　ユーザーの新規追加を行う

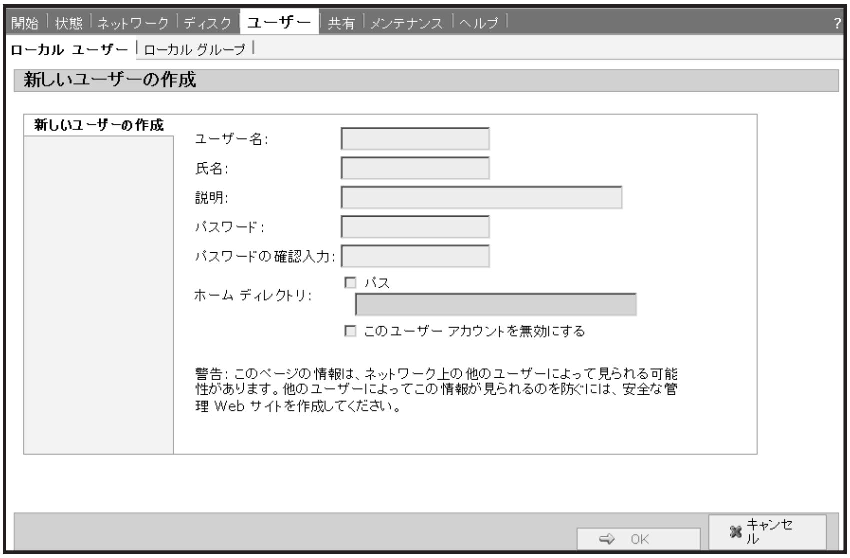
1 **プライマリナビゲーションバーで、［ユーザー］をクリックします。**

2 **セカンダリナビゲーションバーで、［ローカルユーザー］をクリックします。**

次の画面が表示されます。

3 **タスクから［新規］を選択します。**

次の画面が表示されます。



4 **各項目を設定します。**

- 「ユーザー名」・「氏名」・「説明」・「パスワード」・「パスワードの確認入力」の各テキストボックスは、必ず入力します。
- 「このユーザーアカウントを無効にする」のチェックボックスは、新規作成後ただちに有効にしたい場合は、チェックしないでください。
- 組織的な理由から、先にアカウントのみを発行しセキュリティの面から一時的に蓋をしたい場合はこのチェックボックスを選択してください。再度有効にしたい場合は、「7.5 ユーザープロパティを確認／変更する」を参照し作業してください。
- ［ホーム ディレクトリ］では、新しく作成するディレクトリを指定します。ユーザーには、このディレクトリへの排他アクセス権が与えられます。このディレクトリには、上記で指定したユーザー名と同じ名前が付けられ、指定したパスに格納されます。

5 **［OK］をクリックします。**

7.3　既存ユーザーを削除する

最後の 1 つのアカウントと自分自身のアカウント以外であれば、本サーバで作成したすべてのユーザー アカウントを削除できます。また、複数のユーザー アカウントを一度に削除することもできます。ただし、PRIMERGY FileServer 上の唯一のユーザー アカウントを削除すると、セキュリティが無効になります。

ユーザー アカウントを削除するときは、次の点に注意してください。

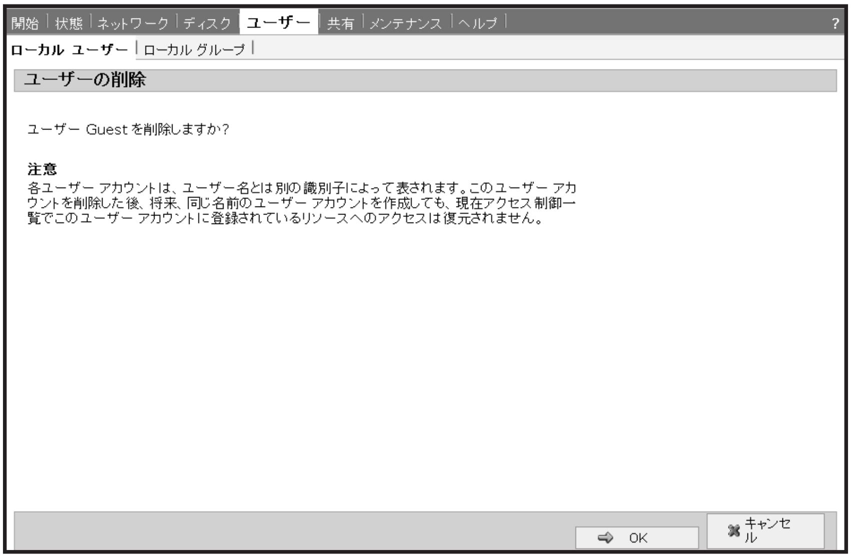
- ビルトイン ユーザーは削除できません。
- 削除したユーザーは元に戻せません。

ユーザー アカウントを削除した後、同じユーザー名を使用して新しいユーザー アカウントを作成した場合は、そのユーザーに対してアクセス許可をもう一度設定しなければなりません。新しいユーザーは、以前のユーザーが与えられていたアクセス許可を継承しません。

ユーザーの削除は、以下の手順で行います。

1 **削除する一つまたは複数のユーザーを選択し、タスクから［削除］をクリックします。**

次の確認画面が表示されます。



2 **指定したユーザーを削除しても構わない場合は、内容を確認し［OK］をクリックしてください。**

ポイント　**誤って他の既存ユーザーを消さないよう、充分配慮してください。**

7.4 パスワードを設定する

パスワードの設定は、以下の手順で行います。

1 **プライマリナビゲーションバーで、［ユーザー］をクリックします。**

2 **セカンダリナビゲーションバーで、［ローカルユーザー］をクリックします。**

3 **設定をしたいユーザーを選択し、タスクボックスより、［パスワードの設定…］をクリックします。**

4 **「パスワード」、「パスワード確認入力」にパスワードを入力し、［ＯＫ］をクリックします。**

7.5 ユーザープロパティを確認／変更する

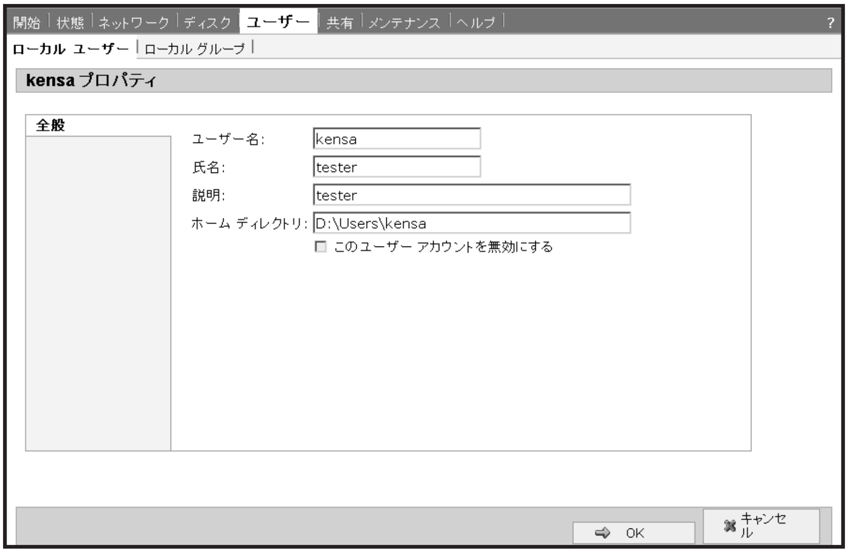
ユーザー プロパティは、ユーザー名、氏名、説明で構成されます。各ユーザーの［プロパティ］ページでは、ユーザー アカウントの有効／無効を切り替えることもできます。さらに、変更するすべてのユーザー アカウントを選択してから［プロパティ］ページを開くと、複数のユーザー アカウントのプロパティを一度に変更できます。

1 **プライマリナビゲーションバーで、［ユーザー］をクリックします。**

2 **セカンダリナビゲーションバーで、［ローカルユーザー］をクリックします。**

3 **ユーザーアカウントを選択し、［タスク］ボックスから［プロパティ］をクリックします。**

次の画面が表示されます。



第 8 章　グループ管理について

この章では、グループ管理について解説しています。

Contents

8.1 **グループ管理の概要** 114
8.2 **グループを新規作成する** 116
8.3 **グループを削除する** 118
8.4 **グループプロパティ情報を表示する** 119

8.1 グループ管理の概要

PRIMERGY FileServer は Windows 2000 オペレーティングシステムのテクノロジーがベースとなっています。Windows 2000 では、次の 2 つのグループを管理する環境があります。

- ワークグループ
  ワークグループは、最も簡単なコンピュータのグループです。
  そのグループ内で、共有ファイルや、プリンタを検索しやすいようにします。
  ドメインによる集中管理下には入らないので、すべてのアカウント情報をローカルに保存します。
- ドメイン
  すべてのアカウント情報を別の Windows NT または Active Directory™ のドメインコントローラに保存します。

⚠注意

本機は、ドメイン コントローラとしての機能はサポートしておりません。ユーザーとグループのアカウント情報をローカルに保存しても、これらのアカウントは本機へのログインの認証以外には使用しない、ワークグループの設定になります。

UNIX のユーザーとグループに関するアカウントモデルについては、「9.1.2 NFS の特長」をご覧ください。

■ ドメインとワークグループの比較

PRIMERGY FileServer は、ワークグループ環境にもドメイン環境にも配備できます。

Windows 標準のファイル共有プロトコル CIFS は、セッションベースの標準ネットワーク ファイル共有プロトコルです。

ネットワーク ドライブやクライアント マシンをマッピングする場合、ユーザーはログイン資格情報をサーバに送信します。この情報は、ユーザー名、パスワード、必要に応じてドメイン情報を指定します。資格情報に基づき、サーバはユーザーに対応するアクセス権を認証し、アクセスを許可します。

PRIMERGY FileServer をワークグループ環境に配備すると、すべてのユーザー アカウントとグループ アカウントのファイル アクセス許可は PRIMERGY FileServer 上にローカルに保存されます。これにより、たとえば共有を特定の使用者に限定したい場合は、PRIMERGY FileServer 上でグループおよびユーザーを管理する必要があります。

一方、ドメイン環境に配備すると、本サーバはドメイン コントローラのアカウントデータベースを使用します。ユーザー アカウントとグループ アカウントは本サーバの外部に保存されます。本サーバは、ドメイン コントローラ インフラストラクチャに統合されます。

このようにワークグループでの運用の場合、ネットワークセグメントの別の場所から単純に参照することは難しくなります。お客様の運用環境が比較的小さなものであれば、ワークグループの設定でも構いませんが、ネットワークセグメントを分割できるような環境の場合は、Windows NT または Active Directory™ のドメインコントローラによる集中管理をおすすめします。

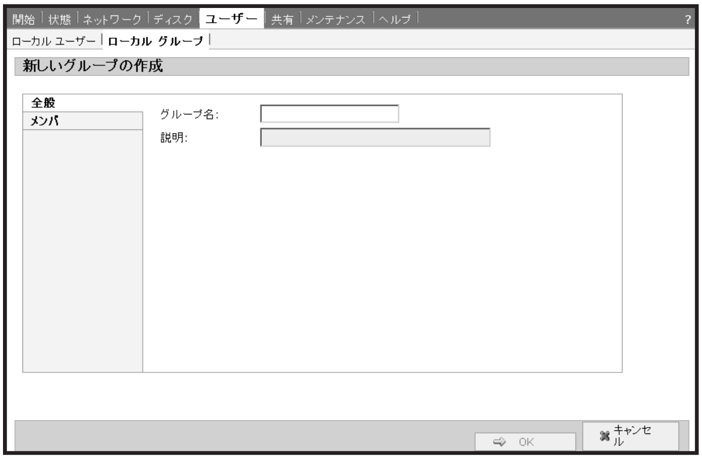
8.2　グループを新規作成する

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、[ユーザー] をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、[ローカル グループ] をクリックします。**

3 **[タスク] ボックスの一覧で、[新規 ...] をクリックします。**

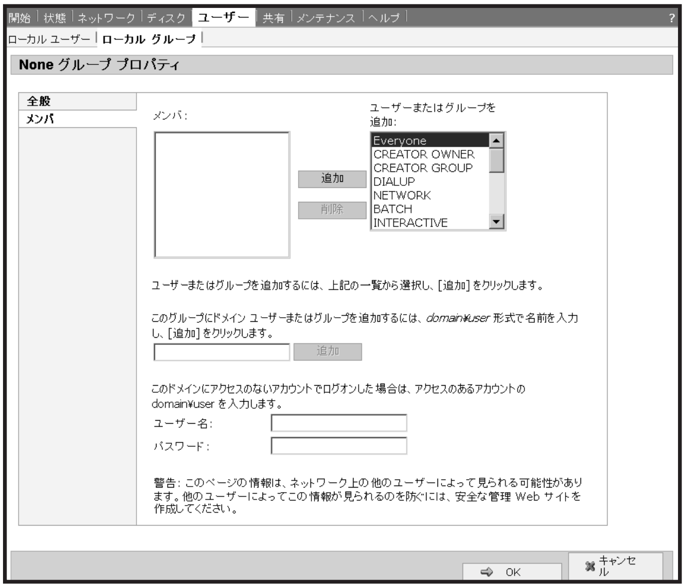
次の画面が表示されます。



4 **[全般] タブで、追加するグループの名前と説明を入力します。**

5 **[メンバ] タブをクリックします。**

次の画面が表示されます。



6　次の操作を行います。

- グループにメンバを追加するには、［ユーザーまたはグループを追加］ボックスからユーザーまたはグループを選択し、［追加］をクリックします。

> **注意**
> **一覧に表示されるのはローカル ユーザーだけです。ドメインユーザー アカウントを追加するには、ドメインとユーザー名（<ドメイン\ユーザー名 >）を入力してください。**

- グループからメンバを削除するには、［メンバ］ボックスでユーザーまたはグループを選択し、［削除］をクリックします。
- PRIMERGY FileServer が（この）ドメインに参加していない、ユーザーアカウントを追加する場合は、下段の設定項目を入力します。ドメインユーザーアカウントの他に、パスワードの入力が必要となります。

8.3　グループを削除する

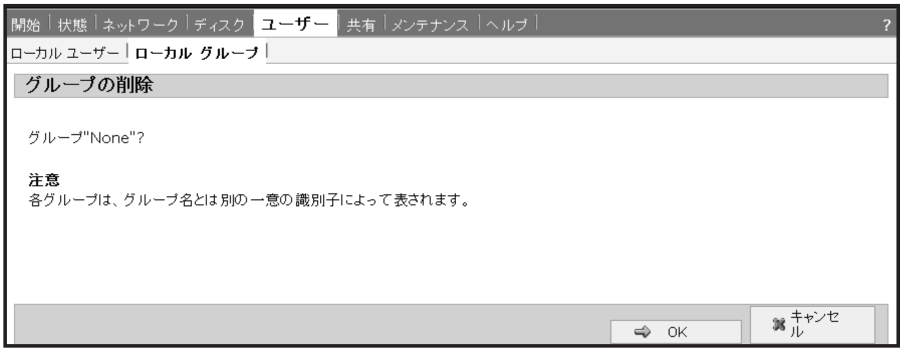
作成したすべてのグループ アカウントを削除できます。ただし、いったん削除したグループ アカウントは復元できません。

複数のグループ アカウントを選択してから［削除］タスクを実行すると、選択したすべてのアカウントを一度に削除できます。

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ユーザー］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［ローカル グループ］をクリックします。**

3 **グループ一覧から削除したいグループを一つまたは複数選択し、タスクから［削除］をクリックします。**
次の確認画面が表示されます。



4 **情報に間違いがなければ、［OK］をクリックし、グループを削除してください。**

8.4 グループプロパティ情報を表示する

［グループ プロパティ］ページには、［全般］タブと［メンバ］タブが表示されます。

［全般］タブでは、グループの名前と説明を設定または変更できます。

［メンバ］タブでは、ユーザーおよびグループの追加や削除を行うことが可能です。

1 **プライマリ ナビゲーション バーで、［ユーザー］をクリックします。**

2 **セカンダリ ナビゲーション バーで、［ローカル グループ］をクリックします。**

3 **［タスク］ボックスの一覧で、［プロパティ］をクリックします。**
［グループ プロパティ］ページが表示されます。

4 **必要に応じて［全般］タブおよび［メンバ］タブで設定を行います。**